SUBARU

富士重工業株式会社

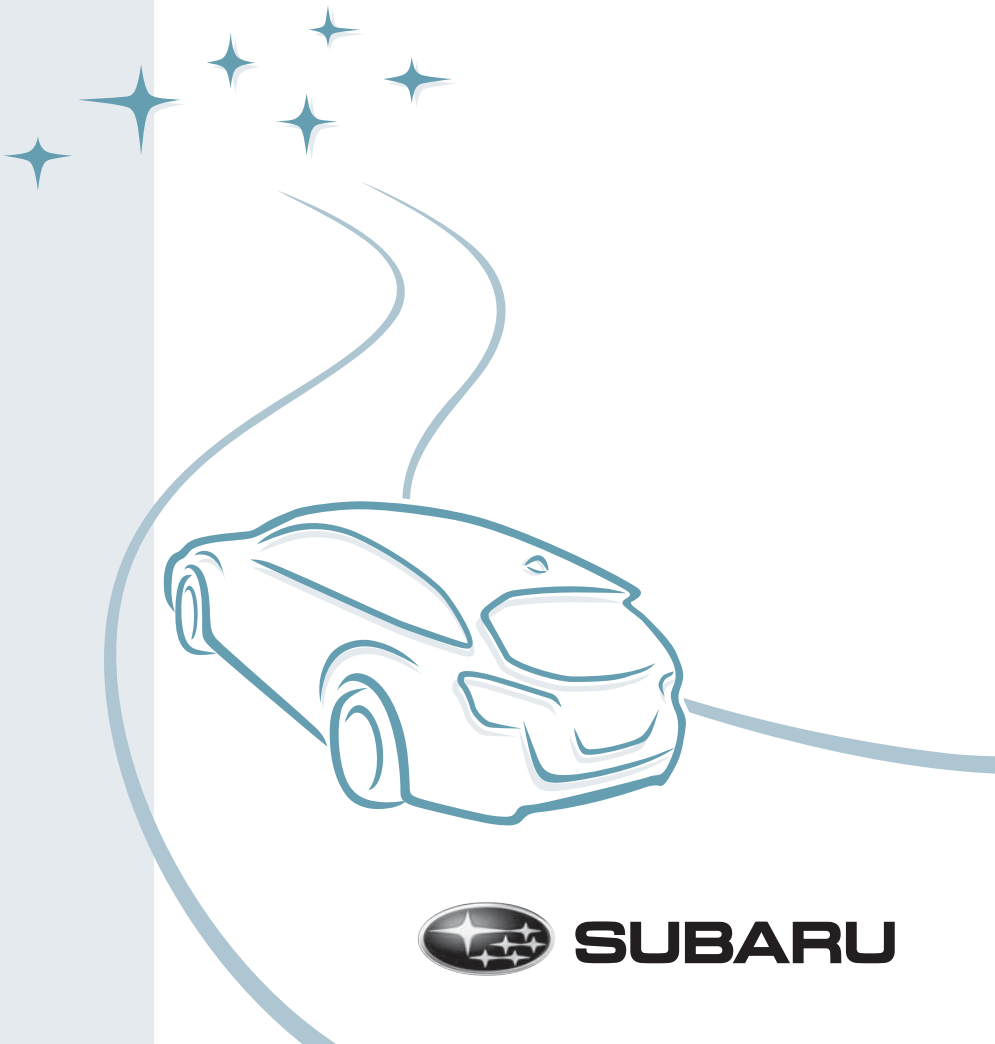
発行 2014年 4月 Printed in Japan DT
Publication No. B1202JJ-A

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

LEVORG

EyeSight (ver.3)



SUBARU

このたびは「レヴォーグ」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は「EyeSight（アイサイト）」の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

本書では「EyeSight (ver.3)」は全て「EyeSight」と表記しています。
EyeSightは運転者への事故被害や運転負荷を軽減するためのシステムです。
運転するときは常に周囲の状況に注意しながら、安全運転を心がけてください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 「EyeSight（アイサイト）」以外の取り扱いについては、別冊の「レヴォーグ取扱説明書」をお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 付属の各取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので
ご了承ください。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

⚠ 警 告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

その他の表示

アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

	グレードなどにより異なる装備については よつばマークがついています。

EyeSight（アイサイト）

EyeSightについて……2
プリクラッシュブレーキ …… 19
全車速追従機能付クルーズコントロール …… 30
アクティブレーンキープ …… 54
AT誤発進抑制制御 …… 68
AT誤後進抑制制御 …… 73
車線逸脱警報 …… 78
ふらつき警報 …… 81
先行車発進お知らせ …… 83
定速クルーズコントロール …… 84
システム作動音一覧 …… 93
EyeSightの故障および一時停止…… 95
カスタマイズ機能 …… 98
割り込み画面一覧 …… 100
故障と思う前に …… 104
さくいん …… さくいん-1

EyeSightについて

EyeSight（アイサイト）

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSightはスバル独自の2台のカメラ（ステレオカメラ）を用いた画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。

⚠ 警 告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSightの各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。

わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。

また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSight の認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- プリクラッシュブレーキ（☆19ページ参照）
- 全車速追従機能付クルーズコントロール（☆30ページ参照）
- アクティブレーンキープ（☆54ページ参照）
- AT誤発進抑制制御（☆68ページ参照）
- AT誤後進抑制制御（☆73ページ参照）
- 定速クルーズコントロール（☆84ページ参照）

右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が充分に発揮できません。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキをOFFにしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールおよびアクティブレーンキープを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）

- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 定員を超えているとき
- コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、音が鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※2

• 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールおよびアクティブレーンキープを使用しないでください。
- 車両などをけん引しているとき

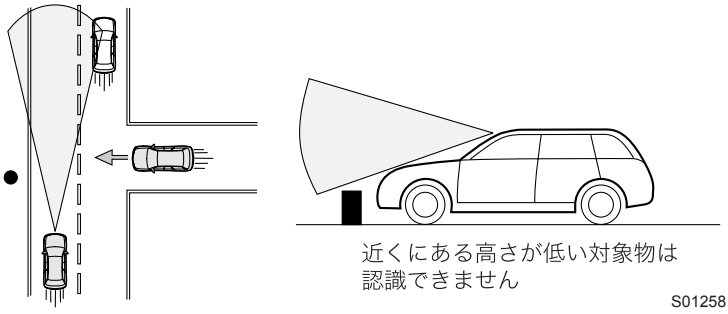
• 以下の状況では、システムが正しく動作しません。アクティブレーンキープを使用しないでください。
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
- ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルを純正品以外に交換しているとき

※1 ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

※2 コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

⚠ 注 意

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- EyeSightの物体の認識はステレオカメラの視野範囲に限られます。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかります。



- 以下の状況では先行車、二輪車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。状況が改善され、しばらく走行すれば再び機能は動作します。
  - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントガラスに油膜が付着したり、ガラスコーティング剤を使用したり、古いワイパーをお使いになった場合、一時停止しやすくなります）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントウォッシャーを使用しているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着し、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
  - 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃が舞い、視界が充分でないとき
  - トンネルの出入り口を通過するとき
  - 前方車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  - 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
  - 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
  - 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき

－急な上り坂、急な下り坂のとき
－ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
－真っ暗で周囲に物がないとき
－周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）
－ステレオカメラのレンズ部に指紋などの汚れが付着したとき
－フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
－ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき

- 以下の状況では、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は動作します。
  －炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
  －エンジンの始動直後
- EyeSight　の動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ（☆ 29ページ参照）と車線逸脱警報機能（☆ 80ページ参照）をOFFにし、全車速追従機能付クルーズコントロール、アクティブレーンキープを使用せずスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

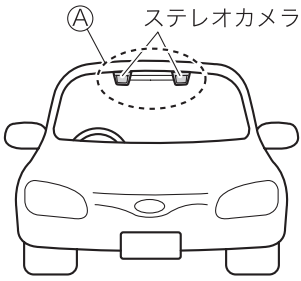
- EyeSight は、プリクラッシュブレーキが作動したときに下記のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
  －ステレオカメラの画像情報
  －先行車との車間距離
  －車速
  －ハンドルの操舵角
  －進行方向に対しての横方向の動き
  －アクセルペダルの操作状況
  －ブレーキペダルの操作状況
  －セレクトレバーの位置
  －オドメーターの値
  －ABS、VDCおよびTCSの制御に関する情報

  スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  ・お車の所有者の同意がある場合
  ・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
  ・統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

※ここでいうスバルは、富士重工業（株）を意味しています。

ステレオカメラの取り扱いについて

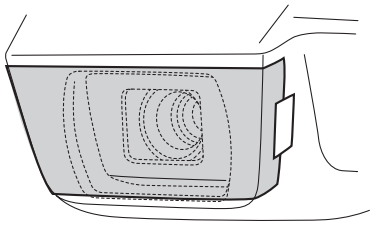
ステレオカメラは天井の前席用スポットマッ
プランプ部分に装着されています。



S00935

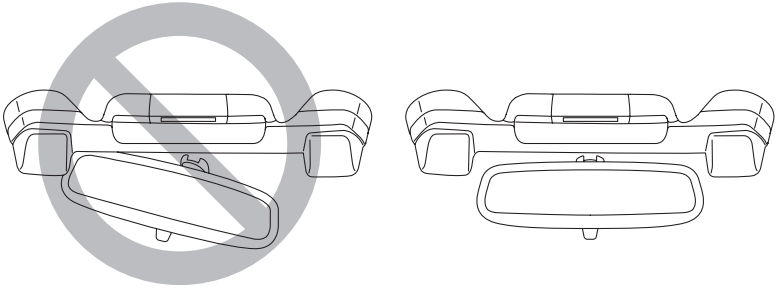
⚠ 注 意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではありません。
  状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れを判定できない場合があります。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、システムが正常に作動しない場合があるため、フロントガラス（上記イラストのステレオカメラ前方Ⓐの部分）はいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が作動しません。
- ステレオカメラは精密部品です。特にレンズ部の取り扱いについては、下記の注意事項を守ってください。
  - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。
    万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。
  - フロントガラスを清掃するときは、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないよう、レンズ部をコピー用紙のように埃の出ない紙でおおい、テープで固定してください。このとき、テープの接着面がフロントガラスおよびレンズ部に付かないようにしてください。清掃後は紙を忘れずに取り外してください。


S01097

– ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
– ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
– ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。

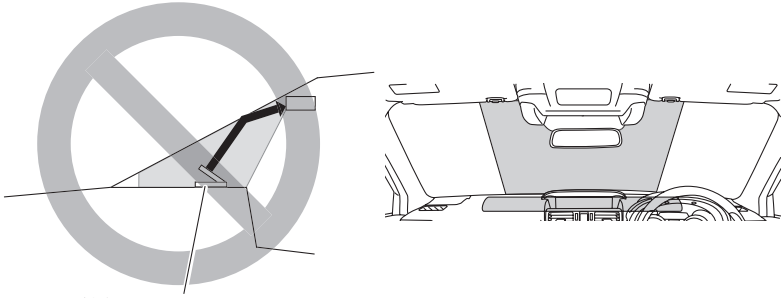
- スバル純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。また、ルームミラーはステレオカメラの前面に重ならないように使用してください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。



S00509

- 下図の禁止エリア（グレー部）にスバルが指定したアクセサリー用品以外の取り付けまたは設置をしないでください。また、禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映りこみなどにより EyeSight の動作に異常があるときは移動させてください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

＜側面＞　　**＜正面＞**

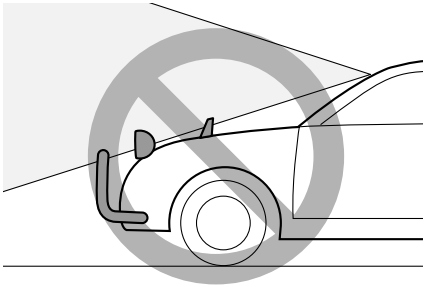


S01011

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- インストルメントパネル上に物を置かないでください。フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。拭き残しによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリー類を取り付けないでください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。
- 右図のステレオカメラの視野範囲内にルーフに積んだ荷物が入らないようにしてください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



S01098

- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保ってください。フロントガラスに曇りや汚れ、油膜などがあるとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、カメラの前面に重ならないようにしてください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。システムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラスにフィルムを貼らないでください。システムが正常に動作しない場合があります。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、スバル販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。スバル純正品以外のフロントガラスを使用するとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の機能があります。

■プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ衝突被害を軽減または、衝突を回避します。

☆19ページ参照

■全車速追従機能付クルーズコントロール

クルーズコントロールをセットしてセット車速を保ちながら走行し、同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☆30ページ参照

■アクティブレーンキープ

高速道路などで道路の区画線（白線など）を認識し、ハンドル操作をアシストします。

車線中央付近を走行するように支援する車線中央維持と、車線を逸脱しそうなときに支援する車線逸脱抑制の2つの機能があります。

☆54ページ参照

■AT誤発進抑制制御

セレクトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。

☆68ページ参照

■AT誤後進抑制制御

後退時、アクセルペダルの急な踏み込みなどによる急な後退を抑制する後退飛び出し抑制制御と、後退時の車速を制限する後退速度リミッターの2つの機能があります。

☆73ページ参照

■車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。

☆78ページ参照

■ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。

☆81ページ参照

■先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。
☆83ページ参照

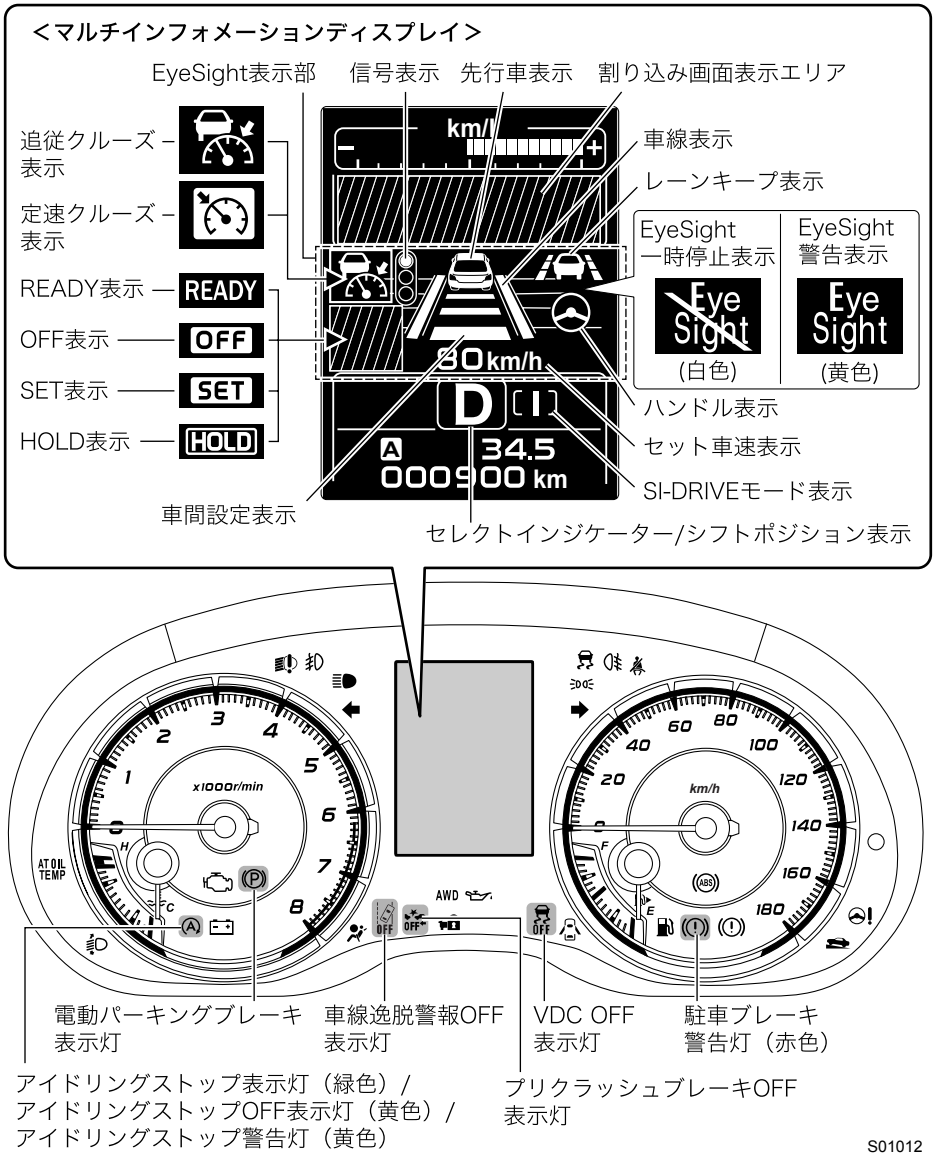
■定速クルーズコントロール

一定速度を保ちながら走行するモードです。追従走行は行いません。EyeSightが一時停止状態（96 ページ参照）でも使用可能な場合があります。（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します。）
☆84ページ参照

アドバイス

EyeSightはエンジンがかかっていないとき、作動しません（アイドリングストップによるエンジン停止時を除く）。

メーター表示構成


＜マルチインフォメーションディスプレイ＞
EyeSight表示部
信号表示
先行車表示
割り込み画面表示エリア
追従クルーズ表示
定速クルーズ表示
READY表示
OFF表示
SET表示
HOLD表示
車線表示
レーンキープ表示
EyeSight一時停止表示
EyeSight警告表示
(白色)
(黄色)
ハンドル表示
セット車速表示
SI-DRIVEモード表示
車間設定表示
セレクトインジケーター/シフトポジション表示
x1000r/min
km/h
AT OIL TEMP
AWD
電動パーキングブレーキ表示灯
車線逸脱警報OFF表示灯
VDC OFF表示灯
駐車ブレーキ警告灯（赤色）
アイドリングストップ表示灯（緑色）/
アイドリングストップOFF表示灯（黄色）/
アイドリングストップ警告灯（黄色）
プリクラッシュブレーキOFF表示灯
S01012

●クルーズ表示［追従クルーズ表示“ ”/定速クルーズ表示“ ”］

- クルーズコントロールのメインスイッチ（ ）を押すと表示が出ます。

☆39、84ページ参照

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているとき、先行車を認識すると白色から緑色に変わります。

☆40ページ参照

●SET表示［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

クルーズコントロールをセットすると表示が出ます。

☆40、86ページ参照

●READY表示

全車速追従機能付クルーズコントロールがセット可能なときに表示が出ます。

☆39ページ参照

●HOLD表示

全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中に表示が出ます。

☆47ページ参照

●OFF表示［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

クルーズコントロールがシステムにより自動的に解除されると表示が出ます。

☆51、90ページ参照

●先行車表示

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中および停止保持中、先行車を認識している場合に表示が出ます。

☆40ページ参照

- 次の場合に点滅します。
  - 先行車発進お知らせが作動するとき
  - プリクラッシュブレーキが作動するとき
  - ブレーキ踏み増し要求警報が作動するとき
  - ＡＴ誤発進抑制制御が作動するとき

●車間設定表示

（車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。

☆46ページ参照

●セット車速表示［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

セット車速を表示します。

☆39、85ページ参照

●赤信号表示

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、次の条件を全て満たすと表示が出ます。

- 先行車がいない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない

さらに、次の条件を満たすと、赤信号表示が点滅します。

- 自車速がセット車速を下回っている

☆38ページ参照

●レーンキープ表示

- /（レーンキープ）スイッチを押すとアクティブレーンキープがONになり、表示が出ます。
- 車線中央維持機能または車線逸脱抑制機能が作動している間、表示が緑色に変わります。

☆54、58、63ページ参照

●SI-DRIVE※モード表示

現在のSI-DRIVEモードを表示します。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

☆16ページ参照

●セレクトインジケーター /シフトポジション表示

セレクトレバーの位置または選択しているギヤ位置を表示します。

2.0L車は、SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合に全車速追従機能付 / 定速クルーズコントロールをセットすると、メーター内の表示がギヤ位置から D に切り替わります。

●車線表示

- アクティブレーンキープがスタンバイ状態のときまたは、作動しているときに左右同時に表示が出ます。
- アクティブレーンキープが作動中に逸脱回避要求警報が作動したとき、左右同時に点滅します。
- 車線逸脱警報が作動したとき、左右同時に点滅します。
- ふらつき警報が作動したとき、左右交互に点滅します。

☆58、63、78、81ページ参照

●ハンドル表示

次の場合に、点滅します。

- アクティブレーンキープが作動中に、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
- アクティブレーンキープが作動中に、逸脱回避要求警報または前方カーブ限界お知らせが作動したとき

☆61、67ページ参照

- 車線逸脱警報またはふらつき警報が作動したとき

☆78、81ページ参照

●EyeSight警告表示（黄色）

- EyeSightが故障したときに表示され、点灯または点滅します。
- 点灯または点滅しているときは、EyeSightの全ての機能（全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキなど全て）が使用できません。

☆95ページ参照

●EyeSight一時停止表示（白色）

- EyeSightが一時停止しているときに表示が出ます。
- エンジンスイッチをONにしてから、エンジンを始動して約7秒経過するまでにクルーズコントロールのメインスイッチ（）または、レーンキープスイッチ（）を押すと表示が出て、エンジン始動後約7秒後に消灯します。
- 表示が出ているときは、定速クルーズコントロールを除くEyeSightの全ての機能が使用できません。

☆96ページ参照

●車線逸脱警報OFF表示灯

- 車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFのとき点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、現在の状態（ONまたはOFF）に応じて消灯または点灯します。

☆80ページ参照

●プリクラッシュブレーキOFF表示灯

- プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFのときに点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

☆29ページ参照

●アイドリングストップ表示灯（緑色：アイドリングストップ警告灯（黄色）/アイドリングストップOFF表示灯（黄色）と兼用）

- エンジンスイッチをONにすると黄色で点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に緑色で点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。
- アイドリングストップシステムに異常があるとき黄色で点滅します。

☆「レヴォーグ取扱説明書」参照

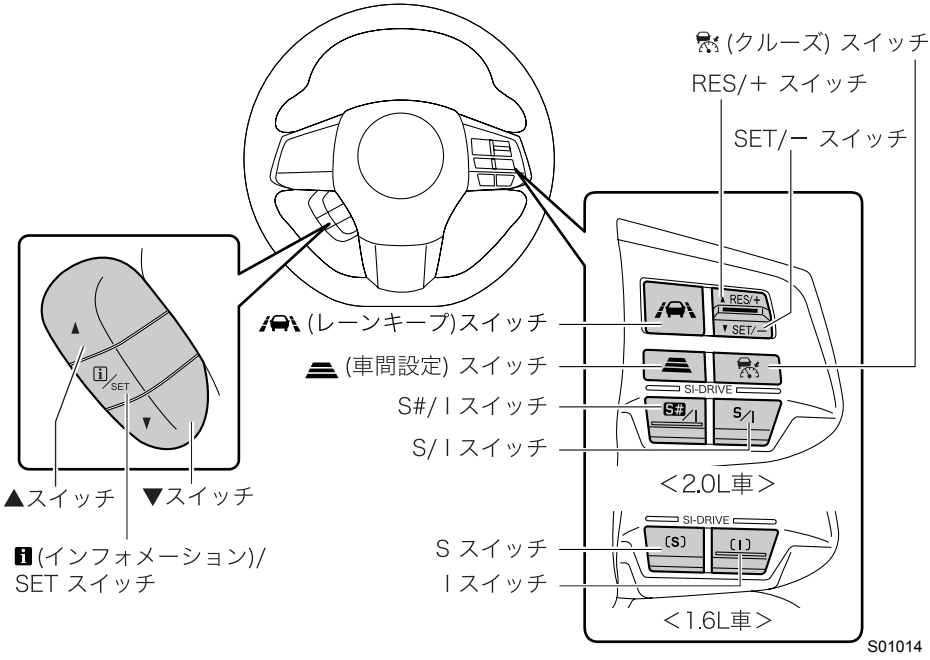
● VDC OFF表示灯

- エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
- VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたときに点灯します。

☆「レヴォーグ取扱説明書」参照

スイッチ構成

■ステアリングスイッチ



●(クルーズ) スイッチ

- クルーズコントロール※のON、OFFができます。
  このスイッチを押してマルチインフォメーションディスプレイの EyeSight 表示部に または の表示が出ている状態を「クルーズメインON」といいます。

☆39、85ページ参照

- クルーズコントロールのセット状態を解除できます。

☆50、90ページ参照

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●RES/SETスイッチ

▼SET/－スイッチ

- クルーズコントロール※のセットができます。
- セット車速を下げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☆40、44ページ参照（全車速追従機能付クルーズコントロール）
☆86、88ページ参照（定速クルーズコントロール）

▼RES/＋スイッチ

- クルーズコントロール※を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。
- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☆43、53ページ参照（全車速追従機能付クルーズコントロール）
☆87、92ページ参照（定速クルーズコントロール）

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●（車間設定）スイッチ

- 車間距離の設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

☆46ページ参照

- （クルーズ）スイッチがONのとき、約2秒以上押し続けると全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

●（レーンキープ）スイッチ

- アクティブレーンキープのON、OFFができます。

☆58、63ページ参照

●SI-DRIVE※スイッチ

SI-DRIVE に連動した追従特性の切り替えを行います。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

▼2.0L車

- **S/Iスイッチ**
  - スイッチを押すごとに、I（インテリジェントモード）と S（スポーツモード）が切り替わります。
  - S#（スポーツシャープモード）選択時、スイッチを押すと S（スポーツモード）に切り替わります。
- **S#/Iスイッチ**
  - スイッチを押すとS#（スポーツシャープモード）に切り替わります。
  - S#（スポーツシャープモード）選択時、スイッチを押すと I（インテリジェントモード）に切り替わります。

▼1.6L車

- **Sスイッチ**

  ー スイッチを押すとS（スポーツモード）に切り替わります。

- **Iスイッチ**

  ー スイッチを押すとI（インテリジェントモード）に切り替わります。

▼SI-DRIVEとの協調制御

SI-DRIVEのモード切り替えにより、全車速追従機能付クルーズコントロールの特性を変えることができます。

I（インテリジェントモード）選択時	穏やかな動きの追従走行を行います。
S（スポーツモード）選択時	先行車への追従性能を重視した、メリハリのある追従走行を行います。
S#（スポーツシャープモード）選択時※	S（スポーツモード）同等の追従走行を行います。運転者によるアクセル操作時は、S#（スポーツシャープ）のレスポンスが得られます。

●▲（戻し）スイッチ/▼（送り）スイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示画面を切り替えるとき
- 警報音量などの設定を変更するとき

☆98ページ参照

● i（インフォメーション）/SETスイッチ

次の場合に使用します。

- マルチインフォメーションディスプレイの割り込み画面を再表示するとき

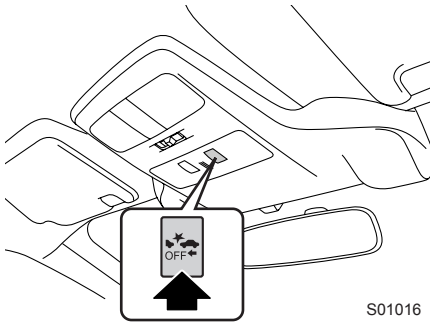
☆100ページ参照

- 警報音量などの設定を変更するとき

☆98ページ参照

■プリクラッシュブレーキOFFスイッチ

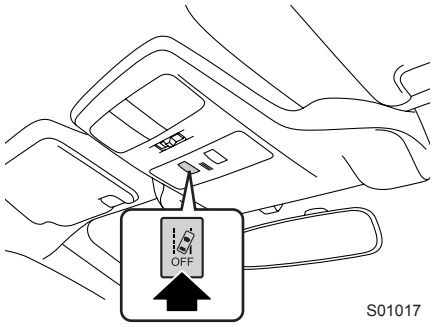
約２秒以上押し続けると、プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFになります。
OFFにするとメーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がONになり、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。
☆29ページ参照



S01016

■車線逸脱警報OFFスイッチ

約2秒以上押し続けると、車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFになります。
OFFにするとメーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がONになり、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。
☆80ページ参照



S01017

プリクラッシュブレーキ

主に前方車両に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、運転者の衝突回避操作があった場合はプリクラッシュブレーキアシストやプリクラッシュステアリングアシストにより衝突回避をアシストします。
これらの機能は、フルラップ（正面）衝突だけでなくオフセット（右または左）衝突にも対応しています。セレクトレバーがD、MまたはNのとき作動します。

⚠ 警 告

- 日常の車両停止や衝突回避のために、プリクラッシュブレーキ、プリクラッシュブレーキアシストおよびプリクラッシュステアリングアシストを絶対に使用しないでください。これらの機能はあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。
- EyeSight のプリクラッシュブレーキは、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的としています。また、車両以外にも二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としていますが、条件（※）によっては認識できない場合があります。横向きの車両や、対向車両、バックしてくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなります。
- プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件（※）により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセル操作をしてもプリクラッシュブレーキを継続します。ただし、アクセルを深く踏み込むとプリクラッシュブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 前方の車両との速度差が 50 km/h（歩行者の場合は 35km/h）より大きい場合、EyeSight の性能限界から衝突を回避することはできません。また、速度差が約50 km/h以下（歩行者の場合は35km/h以下）であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件（※）の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともあります。また、プリクラッシュブレーキアシストやプリクラッシュステアリングアシストも同様に条件（※）の違いにより作動しないことがあります。

※条件

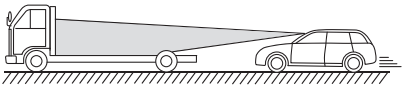
ー 前方車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
ー 車両の状態（積載量、乗員など）
ー 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
ー 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
ー 対象物が車両、二輪車、自転車、歩行者以外の場合
・家畜や動物（例えば、鹿や犬）など
・ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
ー 対象物が二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
ー 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
ー 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
ー 車両などをけん引しているとき
ー 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
ー 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
ー 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
ー ステレオカメラの認識状態

特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。

・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
・先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が充分でないとき
・夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
・夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
・夜間の二輪車、自転車、歩行者に対する接近
・夕方、朝方の薄暗いとき
・ヘッドランプ照射範囲外に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
・前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

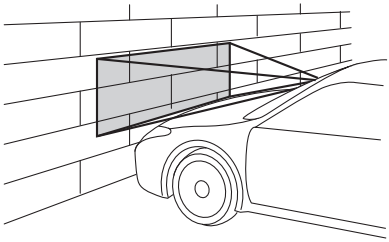
・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
・ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

・前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
  ・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  ・後端から積荷が飛び出している車両など
  ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  ・車高の低い車両など



S00654

・停車している車両の前に壁などがあるとき
・車両の近くに別の物体があるとき
・横向きの車両など
・対向車両やバックしてくる車両など
・大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいとき
  ・小動物や幼児など
  ・しゃがんでいる人や横たわっている人など
・対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき
・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき



S00653

次ページへ ⇒

⇒前ページより

・先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
・車、二輪車、自転車、歩行者が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
・自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
・自車バンパーの近い位置に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
・速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
・路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
・トンネルの出入り口など明るさが変化するとき

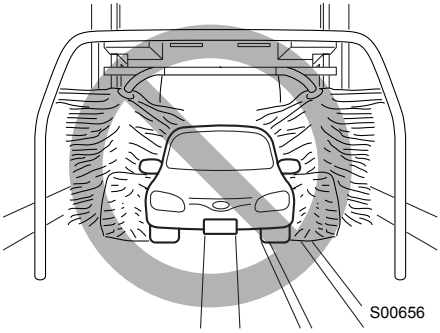
- 安全のため、お客様ご自身でプリクラッシュブレーキの作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキをOFFにしてください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んでいるとき
  - 定員を超えているとき
  - コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、音が鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※2

※1 ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

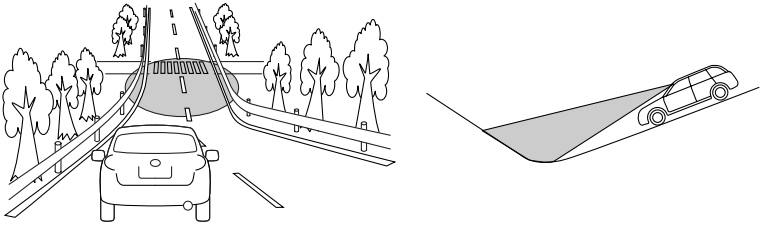
※2 コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

⚠ 注 意

- 次のような場合は、必ずプリクラッシュブレーキを OFF にしてください。プリクラッシュブレーキが予期しない作動をする可能性があります。
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  - サーキットなどでスポーツ走行するとき
  - 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき


S00656

- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 前車に接近して走行するとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

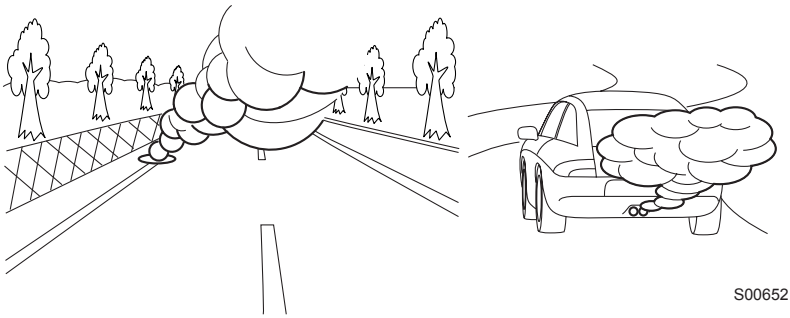

S00705

  - 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が充分でないとき
  - 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき

次ページへ ⇒

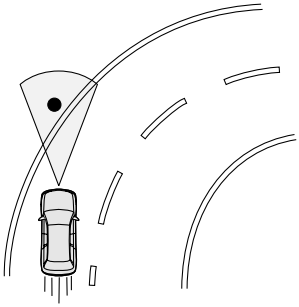
⇒前ページより

– 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



S00652

– カーブや交差点に障害物があるとき



S00657

– 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
– 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

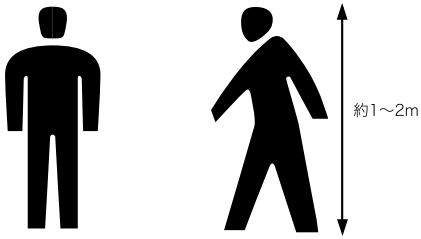
- フロントバンパー先端より前方に突出した用品を装着したり荷物を積載した場合、車両の長さが長くなるため、衝突を回避できないことがあります。
- 自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。

アドバイス

自動ブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

■歩行者認識について

EyeSightは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



S00658

⚠ 警 告

EyeSightのプリクラッシュブレーキは、歩行者も制御対象としていますが、条件によってはシステムが認識できない場合があります。特に、次の状況では、歩行者を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 集団で歩いている
- 壁際や別の障害物のそばにいる
- 傘などをさしている
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいる
- 大きな荷物を持っている
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっている
- 暗い場所にいる
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきた

プリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、以下の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中は制動灯が点灯します。

①車間距離警報：

衝突の可能性があると判断した場合に、“ピピピ…”という音とマルチインフォメーションディスプレイの表示で注意を促します。

車間距離警報は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていないときに作動します。

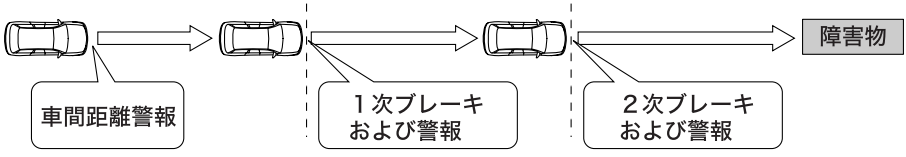
ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

②1次ブレーキおよび警報：

走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、“ピピピ…”という音とマルチインフォメーションディスプレイの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、“ピーー…”という音に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。また、停止後はブレーキ制御を継続します（停止保持）。



	自動ブレーキの強さ	マルチインフォメーションディスプレイの表示	警報音
車間距離警報	ブレーキ制御なし		ピピピ…
1次ブレーキおよび警報	弱い		ピピピ…
2次ブレーキおよび警報	強い		ピーー…

S01057

アドバイス

- 2次ブレーキで停止後、次の場合はブレーキ制御を解除します。
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - アクセルペダルを踏んだとき（セレクトレバーがNのとき以外）
  - セレクトレバーをPにしたとき
- 2次ブレーキで停止後、次の場合はブレーキ制御が解除され電動パーキングブレーキが作動します。電動パーキングブレーキの解除方法は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。
  - 停止後約2分間経過したとき
  - いずれかのドアを開けたとき
  - EyeSightが故障したとき
  - EyeSightが一時停止したとき
- 次の場合、プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
  - 自車速が約1km/h以下（セレクトレバーがNのときは約4km/h以下）または約160km/h以上のとき
  - VDCが作動しているとき
- 先行車のブレーキランプ点灯を認識した場合は、認識しない場合と比べて若干早めに減速を開始します。
- 前方障害物との速度差が大きい場合など、1次ブレーキの継続時間が長いときは、警報効果を高めるため、ブレーキを強めたり弱めたりする場合があります。

プリクラッシュブレーキアシストの作動

プリクラッシュブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

注 意

車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。(運転者による通常の制動力で減速します。)

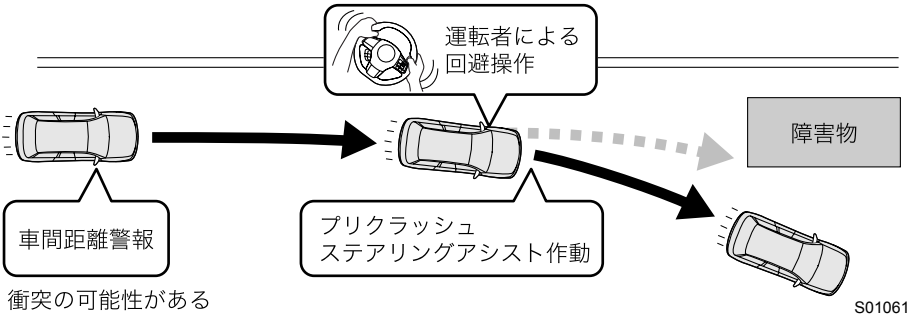
アドバイス

- プリクラッシュブレーキアシストは、自車速が約 10km/h 以下または約160km/h以上のときは作動しません。
- ブレーキアシスト機能については「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

プリクラッシュステアリングアシストの作動

システムが前方障害物に衝突する可能性があると判断したとき（車間距離警報またはブレーキ踏み増し要求警報が作動後）、運転者がハンドル回避操作を行った場合に作動します。VDCのアクティブ・トルク・ベクタリング特性を切り替え、旋回内輪側の前後両輪に弱いブレーキをかけることで通常のアクティブ・トルク・ベクタリング制御よりも旋回性能を高め、ハンドルでの回避操作をアシストします。

アクティブ・トルク・ベクタリング：
旋回時にVDCにより前輪の内輪側にブレーキをかけることで相対的に外輪側の駆動力を大きくし、旋回性能を高める機能です。

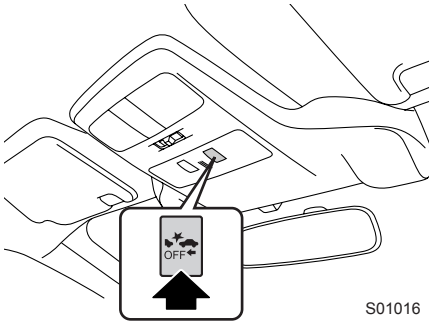


アドバイス

次の場合、プリクラッシュステアリングアシストは作動しません。
- 自車速が約120km/h以上のとき
- VDCが作動しているとき
- VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したとき

プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上押し続けると“ピッ”と鳴り、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト、プリクラッシュステアリングアシストを含む）がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。



S01016

アドバイス

- プリクラッシュブレーキをOFFにすると、AT誤発進抑制制御とAT誤後進抑制制御もOFFになります。
- プリクラッシュブレーキをOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキはONになります。

■プリクラッシュブレーキOFF表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキをOFFにすると点灯します。

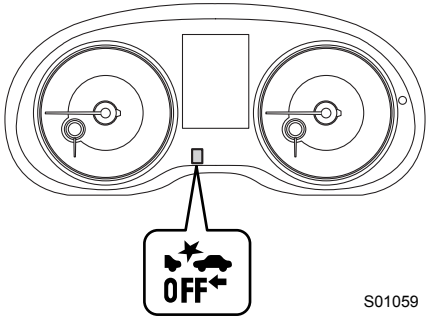
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightが故障したとき

☆95ページ参照

- EyeSightが一時停止したとき

☆96ページ参照



S01059

アドバイス

プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト、プリクラッシュステアリングアシストを含む）は作動しません。

全車速追従機能付クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。前方の自車線上の先行車をステレオカメラにより認識し、運転者が設定した車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら追従走行を行います。先行車に追従して停止したときは、電動パーキングブレーキと連動して停止状態を保持します。

⚠ 警 告

- あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。
- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しないでください。わき見運転やぼんやり運転など、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作を補助する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
  運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定して使用してください。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用してください。

☆「メンテナンスノート」参照

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んでいるとき
  - 定員を超えているとき

－車両などをけん引しているとき
－コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、音が鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※2

※1 ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

※2 コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

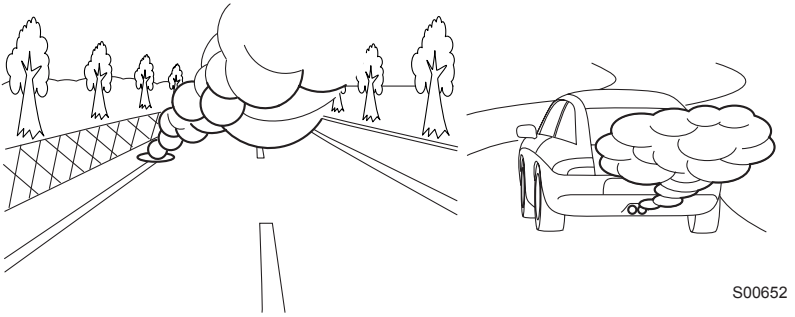
- 全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

－一般道（自動車専用道路以外）
道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
－急カーブがある道
－凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
－頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
交通環境に沿った走行ができない場合があります。
－急な下り坂
セットした車速を超えてしまう場合があります。
－急な下り坂が続くとき
ブレーキが過熱するおそれがあります。
－急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
－インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
先行車を認識できない場合があります。
－トンネルの出入り口など明るさが変化するとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

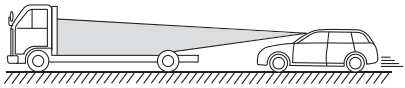
－ 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。



S00652

－ フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
－ フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
－ ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

• 次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。
－ 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
－ 割り込み車両
－ 二輪車、自転車、歩行者、動物など
－ 夕方、朝方の薄暗いとき
－ 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
－ 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
－ 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
－ 前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
・後端から積荷が飛び出している車両など
・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
・車高の低い車両など



S00654

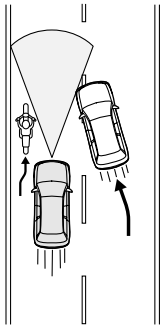
－ 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず（クルーズ）スイッチをOFFにしてください。スイッチをONにした場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を充分確認してください。また、車外からの操作は絶対にしないでください。

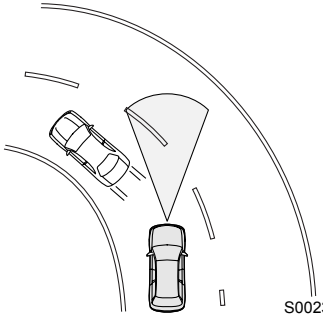
ステレオカメラによる先行車の認識について

- 次のような道路形状や、自車の状況によっては、先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキを踏むなどしてください。

－ 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき


S00182

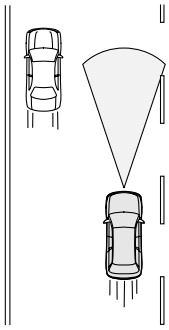
－ カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路（認識エリアから外れて認識できない場合があります）


S00231

次ページへ ⇒

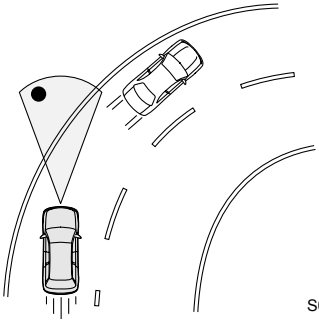
⇒前ページより

ー 先行車との位置が横にずれているとき



S00232

ー 道路のすぐ脇にものがあるとき



S00513

ー 先行車との速度差が大きいとき
ー 前方に車両が割り込んできたとき
ー 極端に車間距離が短いとき
ー 自車が車線内で蛇行しているとき
ー 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
ー 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
ー 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
ー 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。先行車を認識していても速度差が大きい場合や急減速した場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
- “ポーン”や“ピピピッ”などの音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

⚠ 注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続け、先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止状態を保持します。ただし、ステレオカメラが先行車を見失った場合は、停止しないことがあります。ブレーキペダルを踏み車間距離を保ってください。
- 停止保持状態から何も操作せずに自動で発進することはありません。
- 停止保持状態で自動解除される条件（☆ 49ページ参照）を満たしたときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの作動を解除するとともに、安全のため電動パーキングブレーキが自動的に作動します。
- 以下の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの機能

同一車線内に先行車がいない場合は、セットした車速で定速走行を行います。同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。先行車の停止に続いて停止した場合は、停止状態を保持します。自車速が約0 km/h～100 km/hの範囲で作動します。

■その他の機能

●ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。

この機能が作動すると、EyeSight表示部の先行車表示が点滅し、“ピピピ…”と鳴ります。また、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

S01043

⚠ 警 告

- “ポーン”や“ピピピ…”などの音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
- 次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
  - アクセルペダルを踏んでいるとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
  - 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両は認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

アドバイス

- 前方約 110m 以内の同一車線上の先行車をステレオカメラによって認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールでは、SI-DRIVE のモードを変更することにより各モードの特徴を生かした追従走行をすることができます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- (クルーズ) スイッチを押しても“”(追従クルーズ表示) を表示しない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

●信号認識機能

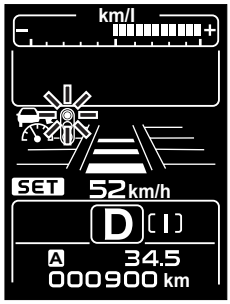
全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しているときに赤信号を検知すると、赤信号を認識したことを表示でお知らせするとともに加速を緩やかにします。

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、次の条件を全て満たすと赤信号表示が出ます。

- 先行車がいない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない

さらに、次の条件を満たすと、赤信号表示が点滅するとともに加速を緩やかにします。

- 自車速がセット車速を下回っている



S01023

ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると赤信号表示が消え、加速抑制制御も解除されます。

⚠ 警 告

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。自動車専用道路以外では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。赤信号の認識を信号認識機能のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、以下の状況では、システムが正しく動作しません。

- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号、矢印信号が暗いとき

アドバイス

赤信号を認識して減速する機能はありません。

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

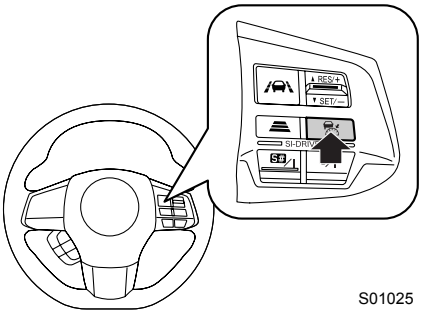
全車速追従機能付クルーズコントロールはエンジンがかかっているときに使用できます。

■全車速追従機能付クルーズコントロールをセットするとき

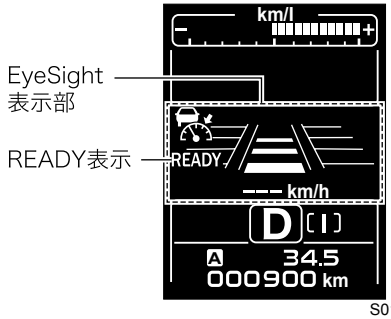
①全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせます。

(クルーズ）スイッチを押します。

全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（追従クルーズ表示）と“”（車間設定表示）を表示します。また、セット車速表示部に“－－－ km/h”を表示します。



S01025



S01026

(クルーズ）スイッチをもう一度押すと OFF になり、EyeSight 表示部の表示が消えます。エンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めたときも自動的にOFFになります。

全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件を全て満たすとセット可能になり、EyeSight表示部に“READY”（READY表示）を表示します。

- 運転席・助手席・後席の全てのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキを解除している（電動パーキングブレーキ表示灯消灯）
- セレクトレバーがDに入っていて、パドルシフトを操作していない
- ブレーキペダルを踏んでいない
- EyeSightが一時停止していない（“”の表示が出ていない）

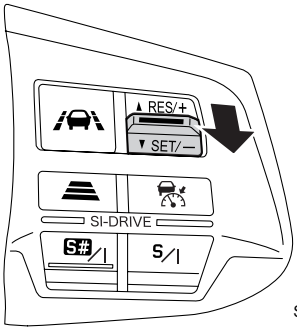
☆96ページ参照

- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が約 0km/h～100km/h のとき

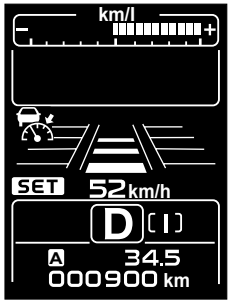
次ページへ ⇒

⇒前ページより

② 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。
RES/SETスイッチをSET/−側に押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。
先行車を認識していないときは定速走行します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされると EyeSight 表示部にセット車速と“SET”（SET表示）が出ます。



S01027

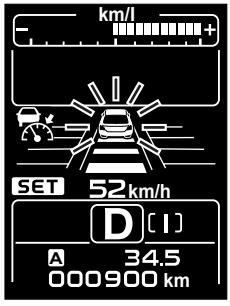


S01028

アドバイス

- セット車速は40 km/h〜100 km/hの範囲で設定できます。
- 自車速が約 40 km/h 以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に40 km/hに設定されます。
- 2.0L車は、SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合に全車速追従機能付クルーズコントロールをセットすると、メーター内の表示がギヤ位置から D に切り替わります。

先行車を認識すると、“ピッ”と鳴ると同時に先行車表示が出て、“ ”（追従クルーズ表示）が緑色に変わります。
所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限となります。
また、先行車を認識しなくなったときは、“ピッ”と鳴ると同時に先行車表示が消え、“ ”（追従クルーズ表示）が白色に変わります。



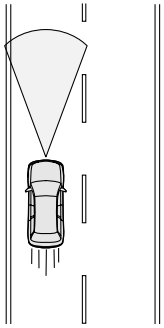
S01029

アドバイス

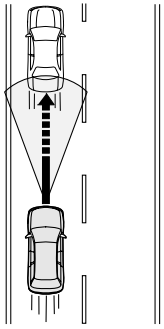
先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときの音（先行車捕捉音）の作動あり/作動なしの設定を変更できます。
☆98ページ参照

全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

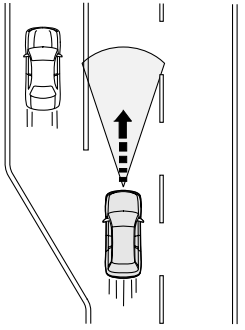
- 先行車がいない場合
  セット車速（約40 km/h ～100 km/h）で定速走行します。


S00139

- 先行車がいる場合
  セット車速（約40 km/h～100 km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。


S00140

- 先行車を認識しなくなったとき
  セット車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
  セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。


S00142

⚠ 注 意

自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

アドバイス

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- 先行車がいない場合でも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- 自動ブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車の減速などによる自動ブレーキ作動中に先行車がいなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 追従走行には、次の特性があります。
  - 先行車の制動灯（ブレーキランプ）の点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
  - 追い越し車線側に車線変更した場合は、走行車線側に車線変更した場合と比べ、セット車速までの加速応答性が高くなります。

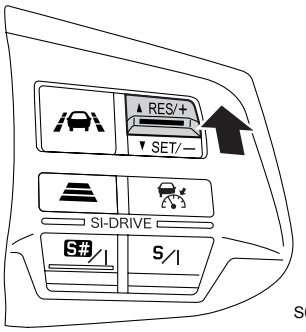
■セット車速を上げるとき

●RES/SETスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、RES/SETスイッチを次のように操作します。

- RES/＋側に1回ずつ押す
  押すごとにセット車速が 5km/h ずつ上がります。
- RES/＋側に押し続ける
  押している間、セット車速が1km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



S01034

●アクセルペダルによる方法

アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
希望の速度になったらRES/SETスイッチをSET/－側に押します。スイッチを押したときの車速に再セットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。

⚠ 注 意

- 全車速追従制御しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/SETスイッチをRES/＋側に押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
  ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。セット車速は EyeSight 表示部を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによる自動ブレーキも警報も行いません。ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

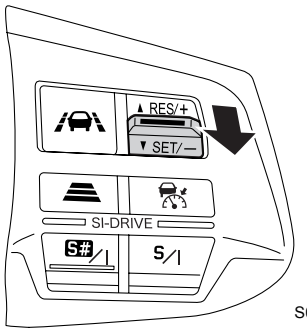
■セット車速を下げるとき

●RES/SETスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、RES/SETスイッチを次のように操作します。

- SET/－側に1回ずつ押す
  押すごとにセット車速が 5km/h ずつ下がります。
- SET/－側に押し続ける
  押している間、セット車速が1km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



S01027

●ブレーキペダルによる方法

① ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
全車速追従機能付クルーズコントロールが解除され、“SET”（SET表示）が消えます。

② 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、RES/SETスイッチをSET/－側に押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。

■一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

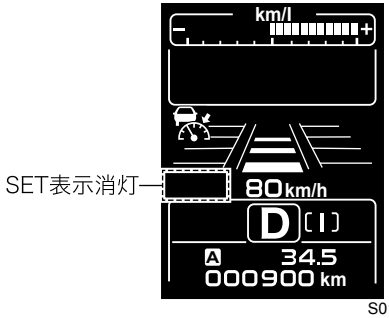
アドバイス

2.0L車は、SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合、アクセルペダルを踏み込むとメーター内の表示がDからギヤ位置に切り替わることがあります。

■一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
EyeSight 表示部にセット車速を表示したまま、“SET”（SET表示）が消えます。

セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/SET スイッチをRES/＋側に押します。



S01035

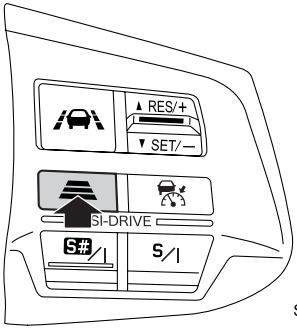
注 意

通常、追従制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

■車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を3段階で設定できます。

(車間設定) スイッチを押すごとに先行車との車間距離が「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



S01036

車間設定	表示
長	
中	
短	

S00520

アドバイス

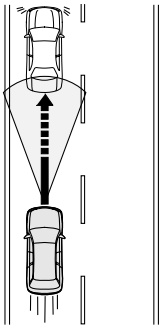
車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

＜車間距離の目安＞

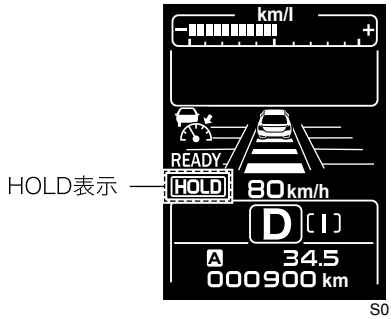
車間距離	自車の走行車速	
	約40km/h	約100km/h
長	約30m	約60m
中	約22m	約45m
短	約15m	約30m

■停止保持機能

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、先行車が停止すると、それに続いて自車も停止します。
先行車に続いて停止した場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット状態が解除され、停止保持を開始します。このとき、EyeSight 表示部の“SET”（SET 表示）が消え、“HOLD”（HOLD 表示）を表示します。また、“ ”（追従クルーズ表示）が白色に戻ります。



S00306

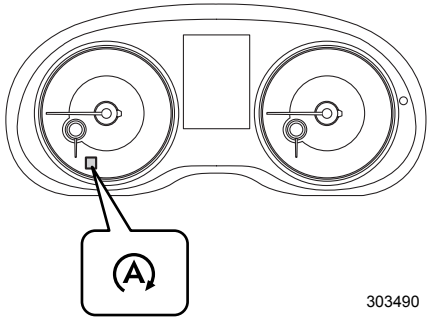


HOLD表示

S01038

アドバイス

1.6L車は、アイドリングストップが作動する条件を満たしているとき（アイドリングストップ表示灯（緑色）点灯）、停車するとブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップが作動し、エンジンが自動停止します。
アイドリングストップ中は表示灯が点灯を続けます。
☆「レヴォーグ取扱説明書」参照



303490

●停止保持状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

▼RES/SETスイッチによる方法

先行車が停止したままの状態でも、RES/SETスイッチを操作すると、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットできます（“HOLD”が消え、“SET”を表示します）。

- RES/SETスイッチをSET/－側に押します。セット車速は自動的に40km/hに設定されます。

☆40ページ参照

- RES/SETスイッチをRES/＋側に押します。停止保持前に設定したセット車速に再び設定されます。

☆53ページ参照

アドバイス

- 全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは自車も続いて発進し、追従走行を行います。ただし発進しなかったときは、約3秒後に再び停止保持状態に自動的に戻ります。
- 1.6L車は、停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは、エンジンが自動で再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

▼アクセルペダルによる方法

停止保持中にアクセルペダルを踏むと停止保持を解除します。このとき全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態になります。

アドバイス

- アクセルペダルを極めて軽く踏んだ場合、停止保持が解除できず、セットできないことがあります。
- 1.6L車は、停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

●停止保持の解除

次の操作をすると停止保持が削除され、同時に全車速追従機能付クルーズコントロールも解除されます。

- ブレーキペダルを踏む
- (クルーズ）スイッチを押す

☆50ページ参照

- 電動パーキングブレーキスイッチを操作し、電動パーキングブレーキを作動させたとき

⚠ 警 告

- 停止保持中は車から離れないでください。
- 停止保持状態は電動パーキングブレーキの代わりではありません。
  駐車するときは電動パーキングブレーキを使用してください。

⚠ 注 意

次の場合はクルーズコントロールによる停止保持を解除します。

- 停止保持状態で約2分経過したとき（“ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ポーン”と音が鳴ります。）
- 自動解除条件を満たしたとき（“ポーン”と音が鳴ります。）

☆51ページ参照

停止保持を解除した後は、自動的に電動パーキングブレーキが作動して(Ⓟ)（電動パーキングブレーキ表示灯）が点灯します。ただし、電動パーキングブレーキの解除条件（アクセル連動や電動パーキングブレーキのスイッチ操作など）が成立している場合は作動しません（詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください)。

停止保持中にアクセルペダルを極めて軽く踏み続けた場合は、クルーズコントロールによる停止保持は解除しますが、電動パーキングブレーキが作動しないことがあります。

●電動パーキングブレーキ作動状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

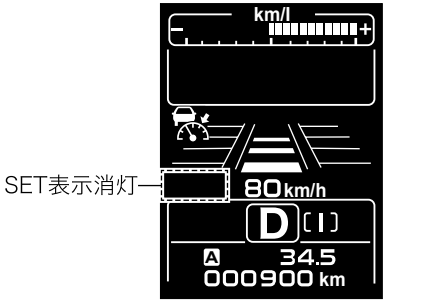
電動パーキングブレーキ作動状態では、例えばアクセルペダルを踏むなどして電動パーキングブレーキを解除した後、設定操作を行ってください。電動パーキングブレーキ解除方法詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

■解除のしかた

●運転者の操作による解除

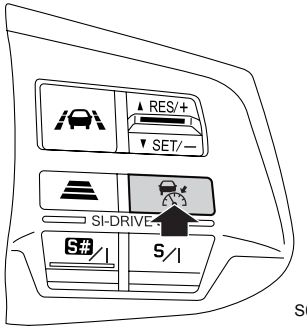
次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
  EyeSight表示部は、セット車速を表示したまま、“SET”（SET表示）が消えます。



S01035

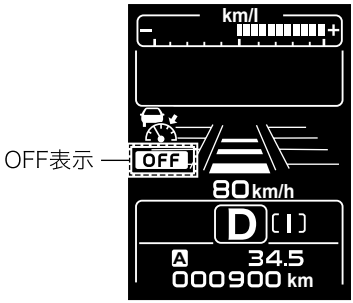
- (クルーズ）スイッチを押す。
  EyeSight表示部は、セット車速を表示したまま、“SET”（SET表示）が消えます。
  ー再度(クルーズ）スイッチを押すと、“”（追従クルーズ表示）表示が消え、全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。



S01039

●システムによる自動解除

次の場合、“ポーン”と音が鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます（EyeSight 表示部に“OFF”（OFF 表示）を表示します）。停止保持中は、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。（アイドリングストップ中はエンジンが再始動し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。）



S01040

- 道路の勾配が急なとき
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- セット中に自車速が約140km/hを超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- セレクトレバーをDに以外にしたとき
  – セレクトレバーをDに戻すと、再度使用できます
- セレクトレバーをDで走行中、パドルシフトを操作したとき
  – パドルシフトをしばらく操作しなければ、再度使用できます（2.0L車でSI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択しているとき以外は、シフトポジション表示がDに戻ります）
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき（電動パーキングブレーキ表示灯が点灯または点滅しているとき）
- EyeSightが一時停止状態のとき（EyeSight表示部に“EyeSight”（EyeSight一時停止表示；白色）が出ている）

☆96ページ参照

- EyeSightが故障したとき（EyeSight表示部に“EyeSight”（EyeSight警告表示；黄色）が出ている）

☆95ページ参照

- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき

⚠ 警 告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

⚠ 注 意

- 1.6L車は、アイドリングストップ中に次の操作を行うと、安全を確保するため全車速追従機能付クルーズコントロールが自動解除されます。これらの操作により自動解除されると通常のエンジン停止状態になり、アイドリングストップ警告灯（黄色）が点灯します。
  この場合、セレクトレバーをPにして周囲の安全を確保してから通常の操作でエンジンを始動してください。
  ー ボンネットを開けたとき
  ー EyeSightが故障したとき　など
  アイドリングストップについては「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。
- セレクトレバーをNにすると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除されますが、緊急時以外はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- EyeSightが一時停止した場合は、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにEyeSight一時停止表示と割り込み画面を表示します。

☆96ページ参照

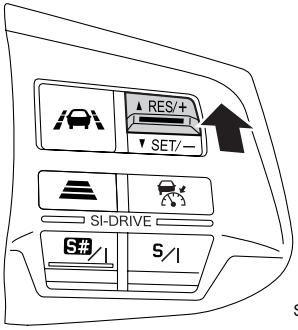
- EyeSightが故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイにEyeSight 警告表示と割り込み画面を表示します。また、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしてもEyeSight 警告表示と表示灯が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

☆95ページ参照

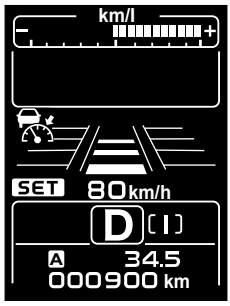
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/SETスイッチをRES/＋側に押します。（EyeSight表示部が再びセット状態の表示になります）



S01034



S01028

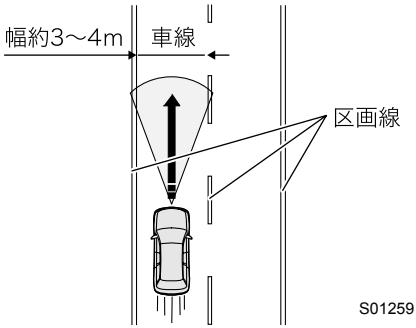
アドバイス

次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。

- （クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
- VDC、TCSが作動したとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき

アクティブレーンキープ

高速道路や自動車専用道路を走行時、ステレオカメラが両側の区画線を認識して自車の車線維持走行を補助したり（車線中央維持機能）、車線を逸脱しないように（車線逸脱抑制機能）、EyeSight が電動パワーステアリングと協調してハンドル操作をアシストするシステムです。



⚠ 警 告

アクティブレーンキープは自動運転システムではありません。
アクティブレーンキープを過信しないでください。わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。

システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、アクティブレーンキープを使用しないでください。

アクティブレーンキープはあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持をアクティブレーンキープのみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。

- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用してください。

☆「メンテナンスノート」参照

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。アクティブレーンキープを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき

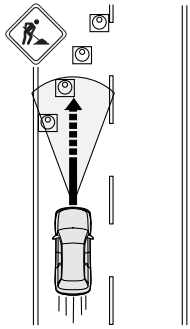
－ハンドルを純正品以外に交換しているとき
－ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
－ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
－ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
－事故や故障で自車の走行が不安定なとき
－ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき
－重い荷物を積んでいるとき
－定員を超えているとき
－車両などをけん引しているとき
－コンビネーションメーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、音が鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、コンビネーションメーターに何らかの異常があるとき※2

※1 ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

※2 コンビネーションメーターの機能、動作について詳細は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

- アクティブレーンキープは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、アクティブレーンキープを使用しないでください。

－一般道（自動車専用道路以外）
－急カーブがある道
－工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき
－古い区画線が残っているとき
－路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
－路面にひび割れや補修の跡があるとき
－凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。


S01099

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
車線を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
- ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

• 次に挙げる状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがあります。
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夕方、朝方の薄暗いとき
- 悪天候時（雨天、降雪など）
- 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
- カーブの形状が急激に変化するとき
- 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  ・区画線がないまたは消えかかっている
  ・区画線が黄色で描かれている
  ・区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  ・区画線が二重に描かれているとき
  ・区画線の幅が細いなど

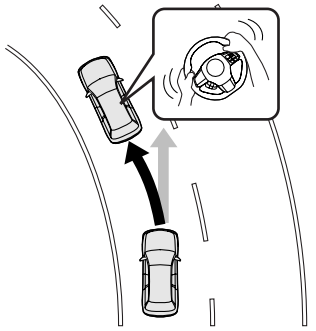
⚠ 注 意

- 次に挙げる状況では、アクティブレーンキープの性能を十分に発揮できないことがあります。また、アクティブレーンキープが作動しないことや作動が解除されることがあります。
  - 車両重量が極端に変化した直後
  - タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  - カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  - サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  - スタッドレスタイヤや純正品以外のタイヤを装着しているとき
  - 横風を受けているとき
  - 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  - 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  - 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  - 加減速度が大きいとき
  - 外気温が低いときのエンジン始動直後
  - 外気温が高いとき
- アクティブレーンキープを使用しないときは、必ず（レーンキープ）スイッチをOFFにしてください。スイッチをONにした場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- （レーンキープ）スイッチをONにすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがあります。

車線中央維持機能

この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているときに使用できます。

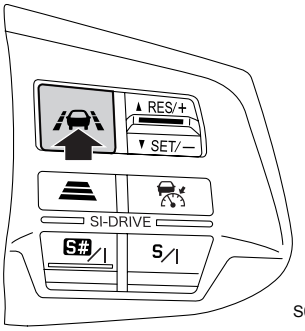
自車速約65km/h～100km/hで走行しているとき、システムが両側の区画線を認識し、車両が車線の中央付近を維持するようにハンドル操作をアシストします。


S01045

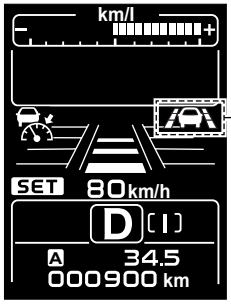
■車線中央維持機能の使用方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、(レーンキープ）スイッチを押します。

アクティブレーンキープがONになり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（レーンキープ表示）が出ます（白色）。



S01047

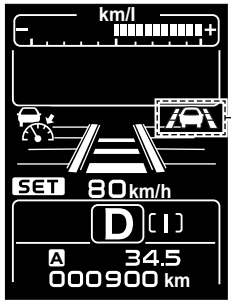


S01048

(レーンキープ）スイッチをもう一度押すとOFFになり、EyeSight表示部の“”（レーンキープ表示）が消えます。

車線中央維持機能は、次の条件を全て満たすと作動します。
作動中は車線表示が出て、“ ”（レーンキープ表示）が白色から緑色に切り替わります。

- 全車速追従機能付クルーズコントロールを60km/h より速い速度にセットして使用している
- 自車速約 65km/h ～ 100km/h で走行している
- システムが両側の区画線を認識している
- 運転者がハンドルを操作している
- 車線幅約3m～4mの道路を走行している
- 直線または、緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している
- カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動あり（ON）にしている



S01101

アドバイス

車線中央維持機能の作動あり/作動なしの設定を変更できます。
☆98ページ参照

■車線中央維持機能の解除

●運転者の操作による解除（音が鳴らない場合）

次の操作で車線中央維持機能が解除されます。
解除されると、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）と車線表示が消えます。

- （レーンキープ）スイッチを押す

次のいずれかの操作で車線中央維持機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）が白色になり、車線表示が消えます。

- ブレーキペダルを踏む
- （クルーズ）スイッチを押して全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する
- 方向指示器レバーを操作する

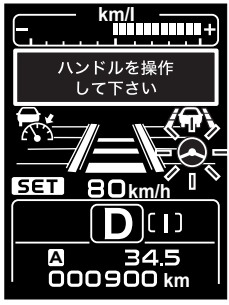
●システムによる自動解除（音が“ポーン”と鳴る場合）

次の場合、"ポーン"という音が鳴り、車線中央維持機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）が白色になり、車線表示が消えます。

- システムが両側の区画線を認識できなくなったとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールがシステムにより自動解除されたとき

☆50ページ参照

- フロントワイパーが高速で作動したとき
- 運転者が車線からそれるために、ハンドルを操作したと判断したとき
- 運転者がハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- アクセルペダルを深く踏み込んだとき
- 自車速が約60km/h未満になったときまたは、約120km/hを超えたとき
- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  - システムがハンドル操作がないことを検知すると、ハンドル表示が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。割り込み画面はシステムがハンドル操作を検知するまで表示し続けます。ハンドル操作を検知できない状態が続くと車線中央維持機能が自動的に解除されます。解除されると、“ ”（レーンキープ表示）が白色に戻ります。



S01054

- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- EyeSightが一時停止状態のとき（“ ”EyeSight一時停止表示；白色）が出ている）

☆96ページ参照

- EyeSightが故障したとき（“ ”（EyeSight警告表示；黄色）が出ている）

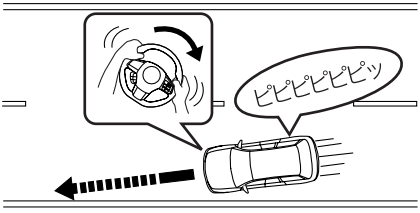
☆95ページ参照

アドバイス

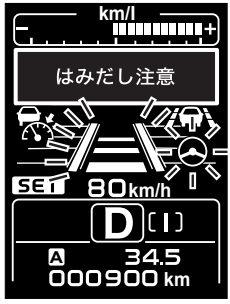
次の場合、システムがハンドル操作を検知できず、車線中央維持機能が自動的に解除されることがあります。
- ハンドルに手を軽く添えて運転しているとき
- 運転者のハンドル操作が小さいとき

■逸脱回避要求警報

車線中央維持機能の作動中に、システムによるハンドル操作アシストでは車線を逸脱する可能性がある場合、運転者に注意を促します。
逸脱回避要求警報が作動すると“ピピピピピピッ”と鳴り、EyeSight表示部のハンドル表示と左右の車線表示が同時に点滅します。また、割り込み画面を表示します。
逸脱回避要求警報が作動した場合は、ハンドルを操作して車線からの逸脱を回避してください。



S01261



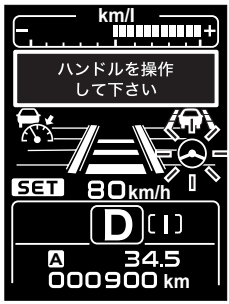
S01053

アドバイス

この機能は、車線逸脱警報をOFFにしても作動します。
☆80ページ参照

■前方カーブ限界お知らせ

車線中央維持機能が作動中、システムによるハンドル操作アシストでは曲がりきれないカーブに進入しようとしていると判断した場合、運転者に注意を促します。
前方カーブ限界お知らせが作動するとEyeSight表示部のハンドル表示が点滅し、割り込み画面を表示します。その後、一定時間経過すると“ポーン”と音が鳴り、車線中央維持機能が解除されます。
前方カーブ限界お知らせが作動した場合は、ハンドル操作を行ってください。



S01103

⚠ 注 意

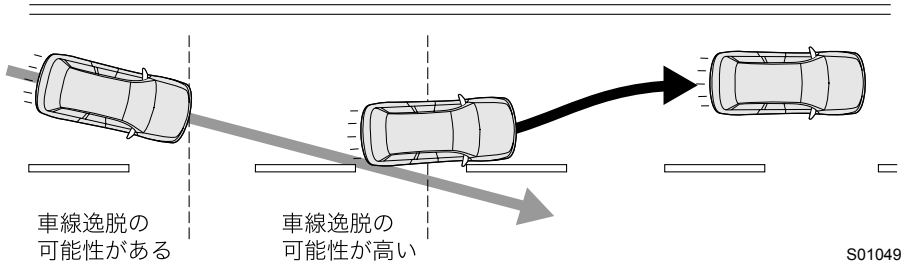
道路形状や自車速などの状況によっては、前方カーブ限界お知らせが出る前に、車線中央維持機能が解除されることがあります。

アドバイス

前方カーブ限界お知らせが出て車線中央維持機能が解除されると、再び直線を走行するまで車線中央維持機能は作動しません。

車線逸脱抑制機能

この機能はシステムが両側の区画線を認識し、高速道路や自動車専用道路を自車速約65km/h 以上で走行時、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。

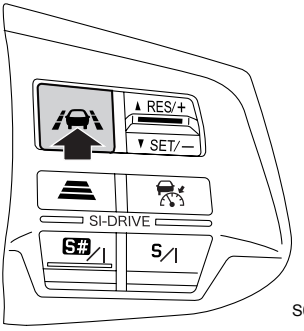


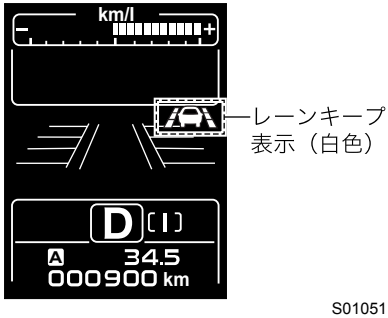
アドバイス

カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動なし（OFF）に設定している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に（レーンキープ）スイッチを押すと車線逸脱抑制機能が作動します。

■車線逸脱抑制機能の使用方法

（レーンキープ）スイッチを押します。
アクティブレーンキープが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”（レーンキープ表示）が出ます（白色）。





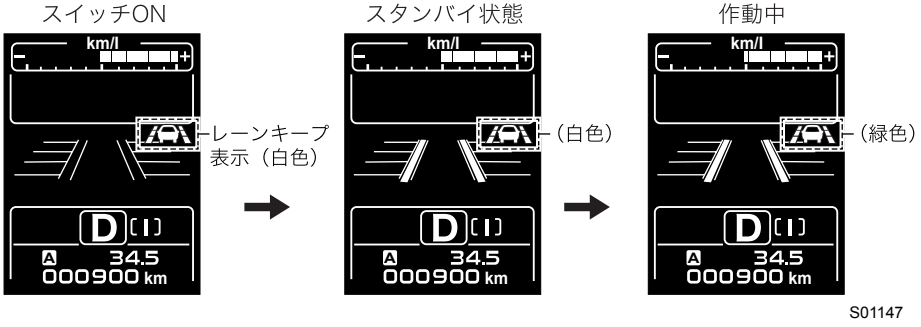
次ページへ ⇒

⇒前ページより

（レーンキープ）スイッチをもう一度押すとOFFになり、EyeSight表示部の“”（レーンキープ表示）が消えます。

車線逸脱抑制機能は、次の条件を全て満たすとスタンバイ状態になり、車線表示が出ます。
- 自車速約65km/h～100km/hで走行している
- システムが両側の区画線を認識している
- 運転者がハンドルを操作している
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていない。または、カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動なし（OFF）に設定している
- 車線幅約3m～4mの道路を走行している
- 直線または、緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している

車両が車線から逸脱しそうになると車線逸脱抑制機能が作動し、作動中は“”（レーンキープ表示）が緑色になります。



アドバイス

- アクティブレーンキープをONにした後、全車速追従機能付クルーズコントロールをONにすると、車線逸脱抑制機能から車線中央維持機能に切り替わります（ただし、カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動あり（ON）に設定しているとき）。
- ハンドルに手を軽く添えた状態が続いたり、ハンドルを操作していない場合、機能が自動的に解除されます。（“”（レーンキープ表示）が白色に戻ります。）
- 車線逸脱抑制機能は、そのままでは車線から逸脱するとシステムが判断したときに作動します。そのため、車線逸脱警報（☆78ページ参照）に比べて早いタイミングで作動します（周囲の環境，道路状況によって異なります）。

■車線逸脱抑制機能の解除

●運転者の操作による解除（音が鳴らない場合）

次の操作で車線逸脱抑制機能が解除されます。
解除されると、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）と車線表示が消えます。

- （レーンキープ）スイッチを押す

次のいずれかの操作で車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）が白色になり、車線表示が消えます。

- ブレーキペダルを踏む
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしたとき（ただし、カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動あり（ON）に設定しているとき）
  ー 制御が車線中央維持機能に切り替わります。
- 方向指示器レバーを操作する
- 車線変更などのために、運転者がハンドルを操作したとシステムが判断したとき
- アクセルペダルを深く踏み込んだとき
- 非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチをONにする

●システムによる自動解除（音が“ポーン”と鳴る場合）

次の場合、"ポーン"という音が鳴り、車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、EyeSight表示部の“ ”（レーンキープ表示）が白色になり、車線表示が消えます。

- システムが車線を認識できなくなったとき
- フロントワイパーが高速で作動したとき
- 自車速が約60km/h未満になったときまたは、約120km/hを超えたとき
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき（電動パーキングブレーキ表示灯が点灯または点滅しているとき）
- セレクトレバーをD、M以外にしたとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  - システムがハンドル操作がないことを検知すると、ハンドル表示が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。割り込み画面はシステムがハンドル操作を検知するまで表示し続けます。ハンドル操作を検知できない状態が続くと車線逸脱抑制機能が自動的に解除されます。
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき

S01102

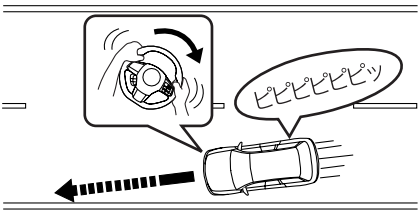
- EyeSightが一時停止状態のとき（“EyeSight”EyeSight一時停止表示；白色）が出ている）
☆96ページ参照
- EyeSightが故障したとき（“EyeSight”（EyeSight警告表示；黄色）が出ている）
☆95ページ参照

アドバイス

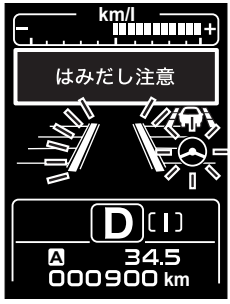
スタンバイ状態（（レーンキープ表示）が白色）のときに自動解除された場合、“ポーン”という音は鳴りません。

■逸脱回避要求警報

車線逸脱抑制機能の作動中に、システムによるハンドル操作アシストでは車線を逸脱する可能性がある場合、運転者に注意を促します。
逸脱回避要求警報が作動すると“ピピピピピピッ”と鳴り、EyeSight表示部のハンドル表示と左右の車線表示が同時に点滅します。また、割り込み画面を表示します。
逸脱回避要求警報が作動した場合は、ハンドルを操作して車線からの逸脱を回避してください。



S01261



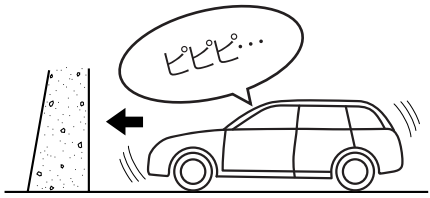
S01104

アドバイス

この機能は、車線逸脱警報をOFFにしても作動します。
☆80ページ参照

AT誤発進抑制制御

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進を緩やかにします。



S01063

AT誤発進抑制制御が作動すると“ピピピ･･･”と鳴り、EyeSight表示部の先行車表示が点滅し、割り込み画面を表示します。
この機能はセレクトレバーがDまたはMのとき作動します。

S01043

⚠ 警 告

AT誤発進抑制制御を過信しないでください。AT誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

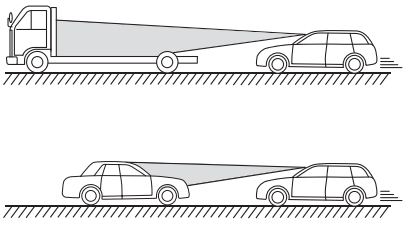
- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- AT 誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT 誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT 誤発進抑制制御をOFFにしてください。

☆72ページ参照

• 次の条件の違いにより作動しないことがあります。
ー 対象物との距離、速度差、横方向のずれ具合（オフセット量）
ー ステレオカメラの認識状態
特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
・砂や煙が舞い、視界が充分でないとき
・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
・屋内の駐車場など暗い場所で対象物に接近するとき
・ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
・前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
・ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

・対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
・対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
・小動物や幼児など
・しゃがんでいる人や横たわっている人など
・対象物や前方車両（トレーラーや対向車両など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して、作動し効果が充分でないこともあります）

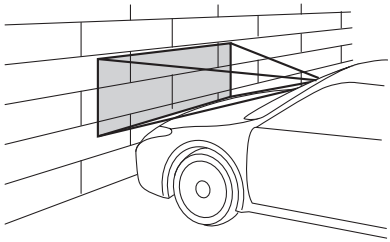


S00771

次ページへ ⇒

⇒前ページより

・対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき


S00653

・車、二輪車、自転車、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき

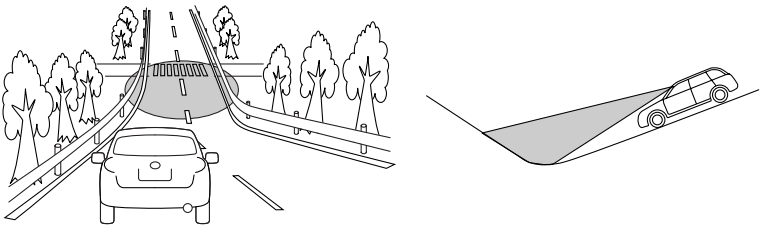
－ 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

- 安全のため、お客様ご自身で AT 誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

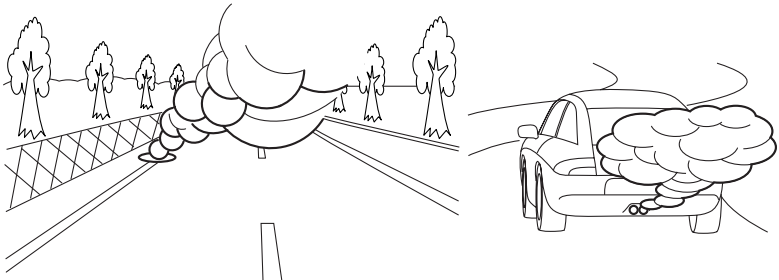
- 次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。
  － けん引されるとき
  － キャリアカーに積載するとき
  － シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  － リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
  － 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  － サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 次のような場合は、AT 誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。
  － 前車に接近して走行するとき
  － ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき

－ 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき



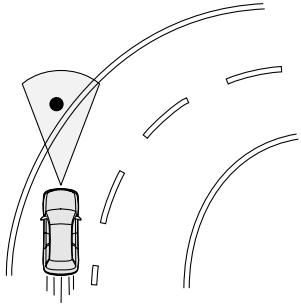
S00705

－ 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき



S00652

－ カーブや交差点に障害物
があるとき



S00657

－ 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
－ 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

アドバイス

- アクセルを踏み続けたとき（3秒以上）は、徐々に制御を解除します。
- プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。

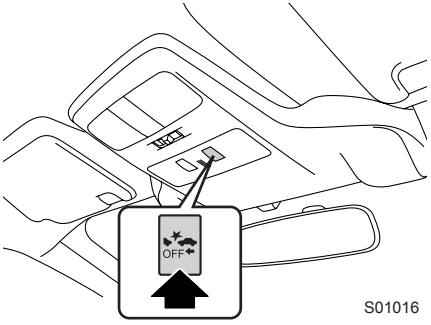
☆29ページ参照

AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

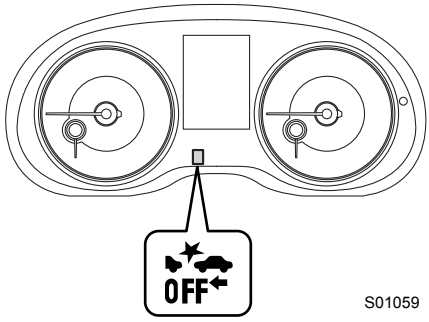
プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上押し続けると“ピッ”と鳴り、AT誤発進抑制制御がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。

ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。

☆29ページ参照



S01016



S01059

アドバイス

- AT誤発進抑制制御をOFFにするとプリクラッシュブレーキとAT誤後進抑制制御もOFFになります。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

AT誤後進抑制制御

AT誤後進抑制制御には、後退時の急な飛び出しを防ぐ後退飛び出し抑制と、後退時の速度を一定に保つ後退速度リミッターの機能があります。
これらの機能はセレクトレバーがRでブレーキを踏んでいないとき作動します。
AT誤後進抑制制御はステレオカメラを使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

⚠ 警 告

AT誤後進抑制制御を過信しないでください。AT誤後進抑制制御は衝突を回避するものではありません。後進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。AT 誤後進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- AT誤後進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT誤後進抑制制御はあらゆる状況で後退時の速度を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- 安全のため、お客様ご自身で AT 誤後進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキを踏んでいる最中は制御が作動しません。そのため、下り坂などでは設定された速度を超過する場合があります。お客様自身でブレーキを踏み増すなど速度調整をしてください。
- 万一、退避を要するような危険な状況に遭遇して、後進によって退避を行う必要がある場合なども、AT 誤後進抑制制御は作動します。慌てずにアクセルペダルを深く踏み続けるか、AT 誤後進抑制制御を OFF にしてください。

☆77ページ参照

⚠ 注 意

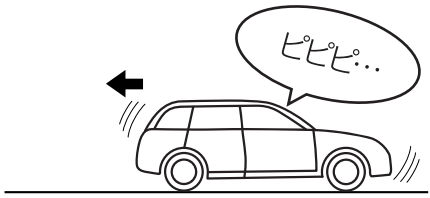
- 以下の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

アドバイス

プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御は作動しません。
☆29ページ参照

後退飛び出し抑制

後退時、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し急な後退を抑制します。



S01066

後退飛び出し抑制が作動すると、“ピピピ…”と鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

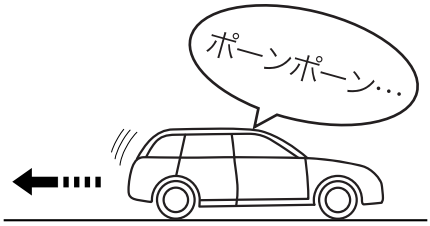
S01068

アドバイス

- アクセルペダルを深く踏み続けたとき（約3秒以上）は割り込み画面が消え、徐々に制御を解除します。
- AT 誤後進抑制制御はステレオカメラを使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

後退速度リミッター

後退時、必要以上に加速しないよう車速を制限します。
制限速度は運転者が設定できます。



S01094

アドバイス

- 後退速度リミッターは機能の作動なしと作動あり（低速／中速／高速）の設定ができます。

低速	約10km/h
中速	約15km/h
高速	約20km/h

☆98ページ参照

- アクセルペダルを深く踏み込むと制御を解除することができます（“速度制限中”の割り込み画面が消えます）。
  - アクセルペダルから足を離すと、再度後退速度リミッターが作動します。
  - すべりやすい路面などでタイヤが空転したときは、後退速度リミッターが作動することがあります。
  - システムがアクセルの急踏みと判断した場合、後退飛び出し抑制が作動します。

①セレクトレバーを[R]にするとマルチインフォメーションディスプレイに制限速度の設定値を表示します。

S01100

②制限速度を超過しそうになると、後退速度リミッターが作動します。
作動中はセレクトレバーを[R]にしたときよりも早い間隔で“ポーンポーン…”と音が鳴ります。また、マルチイフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

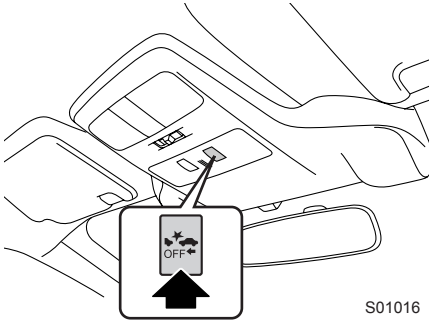
S01096

AT誤後進抑制制御をOFFにするとき

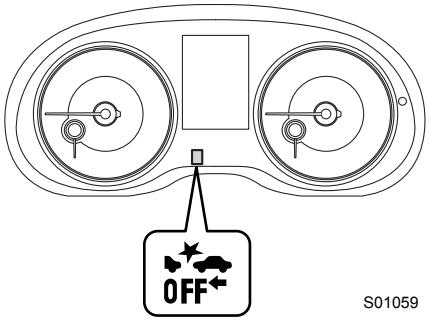
プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上押し続けると“ピッ”と鳴り、AT誤後進抑制制御(後退飛び出し抑制と後退速度リミッター）がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。

ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。

☆29ページ参照



S01016



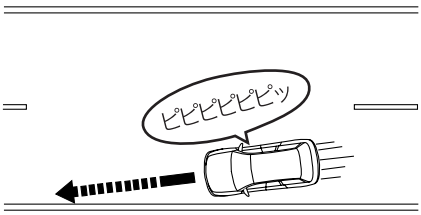
S01059

アドバイス

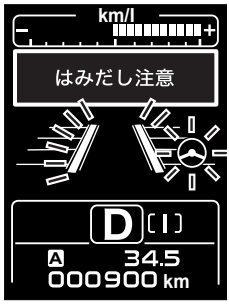
- AT 誤後進抑制制御を OFF にするとプリクラッシュブレーキと AT 誤発進抑制制御もOFFになります。
- AT誤後進抑制制御をOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとAT誤後進抑制制御はONになります。

車線逸脱警報

自車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。
車線逸脱警報が作動すると“ピピピピピピッ”と鳴り、EyeSight表示部のハンドル表示と左右の車線表示が同時に点滅します。また、割り込み画面を表示します。



S00422



S01071

⚠ 警 告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。
車線逸脱警報は両側の区画線を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではありません。

⚠ 注 意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。

- 自車速が約40 km/h未満のとき
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 半径300m以下のカーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約4秒間
- 非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチをONからOFFにした後の約4秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がないまたは消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど

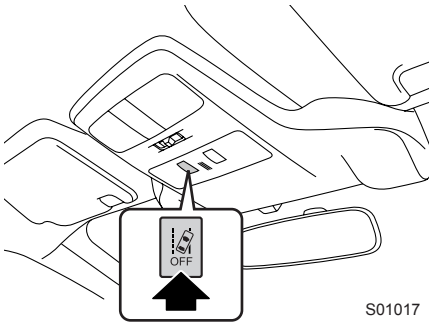
アドバイス

- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
  - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  - 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡などがあるとき
  - ガードレールの影などがあるとき
  - 区画線が二重に描かれているとき
  - 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。

☆80ページ参照

車線逸脱警報をOFFにするとき

車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上押し続けると、ブザーが“ピッ”と鳴り、車線逸脱警報がOFFになります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。



S01017

アドバイス

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

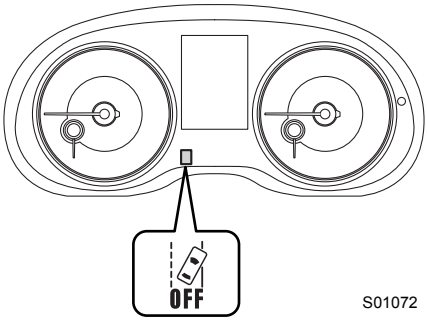
■車線逸脱警報OFF表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、現在の状態（ONまたはOFF）に応じて消灯または点灯します。
車線逸脱警報をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。
- EyeSightが故障したとき

☆95ページ参照
- EyeSightが一時停止したとき

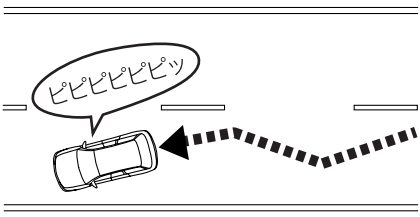
☆96ページ参照



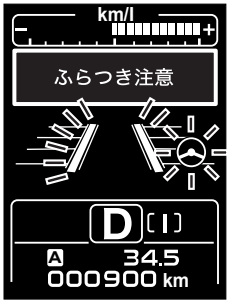
S01072

ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動すると“ピピピピピピッ”と鳴り、EyeSight表示部のハンドル表示が点滅し、車線表示が左右交互に点滅します。また、割り込み画面を表示します。
自車速が約60 km/h以上で作動します。



S01074



S01076

⚠ 警 告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

次の状況では、作動しない場合があります。

- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がないまたは消えかかっている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど

アドバイス

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきがおさまった後もしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報は運転者に注意を促す機能です。疲れたときやよそ見など、運転への集中力が落ちた際は、必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 次の場合、ふらつき警報は作動しません。
  - アクティブレーンキープ（車線中央維持機能、車線逸脱抑制機能）が作動しているとき

☆54ページ参照

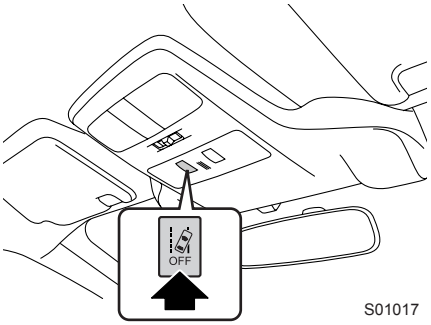
  - 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているとき

☆80ページ参照

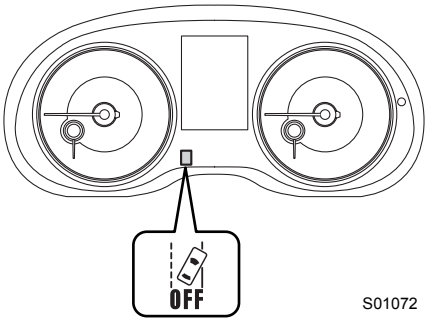
ふらつき警報をOFFにするとき

車線逸脱警報OFFスイッチを約2秒以上押し続けると“ピッ”と鳴り、ふらつき警報がOFFになります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

☆80ページ参照



S01017



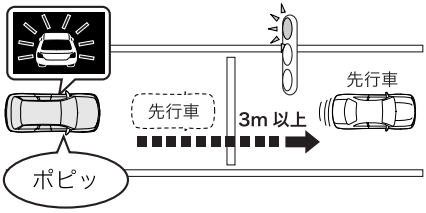
S01072

アドバイス

- ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、音と表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約10 m以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約3 m以上 進んでも自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーがD、MまたはNのとき作動します。
この機能が作動すると“ポピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの先行車表示が点滅します。また、割り込み画面を表示します。



S01077

S01079

アドバイス

- 先行車発進お知らせの作動あり/作動なしの設定を変更できます。
☆98ページ参照
- 次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
  - ステレオカメラが先行車を見失ったとき

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールについて

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速（約 40km/h ～ 100km/h）を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

⚠ 警 告

- 定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 急な下り坂
    セット車速を超えてしまう場合があります。
  - 急な下り坂が続く場合
    ブレーキが過熱するおそれがあります。
  - 車両などをけん引しているとき
    セット車速を維持できなくなる場合があります。

⚠ 注 意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをマルチインフォメーションディスプレイの EyeSight 表示部の表示で必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール … “ ”（追従クルーズ表示）
- 定速クルーズコントロール … “ ”（定速クルーズ表示）

アドバイス

- (クルーズ) スイッチを押すと、全車速追従機能付クルーズコントロールになります。
- クルーズコントロールを切り替えるときは、(車間設定)スイッチを約2秒以上押し続けます。
  (クルーズメイン ON で全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールをセットしていないときのみ有効)
- EyeSightが一時停止中でも、定速クルーズコントロールは使用できます。

定速クルーズコントロールの使用方法

定速クルーズコントロールは、次の条件を全て満たすとセットできます。

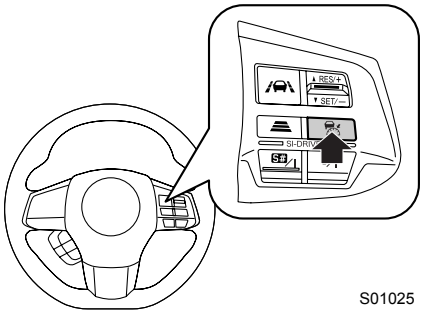
- セレクトレバーがDに入っていて、パドルシフトを操作していない
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 自車速が約40km/h～100km/hのとき

■定速クルーズコントロールをセットするとき

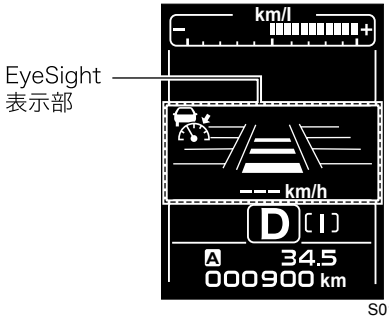
①全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせます。

(クルーズ) スイッチを押します。全車速追従機能付クルーズコントロールが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部に“”(追従クルーズ表示)と“”(車間設定表示)を表示します。また、セット車速部に“- - - km/h”を表示します。

(クルーズ) スイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロールとして起動します。



S01025



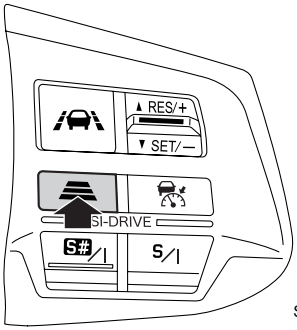
S01080

(クルーズ) スイッチをもう一度押すとOFFになり、EyeSight表示部の表示が消えます。エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを止めたときもエンジンを止めたときも自動的にOFFになります。

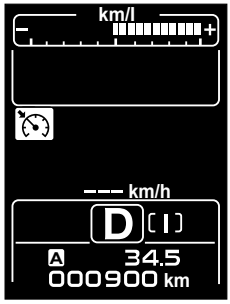
次ページへ ⇒

⇒前ページより

②定速クルーズコントロールに切り替えます。
（車間設定）スイッチを約2秒以上押し続けると、全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替わり、“ピッ”と音が鳴ります。
このときEyeSight表示部の車間設定表示が消え、“”（定速クルーズ表示）に切り替わります。

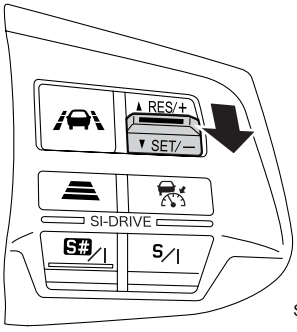


S01081

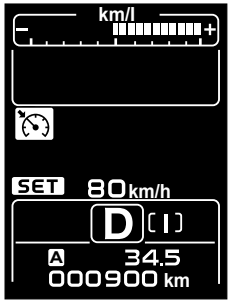


S01082

③アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
④希望する速度になったら、RES/SETスイッチをSET/−側に押します。
スイッチを押したときの車速がセット車速となり、定速走行します。
EyeSight表示部にセット車速と“SET”（SET表示）が出ます。



S01027



S01083

⚠ 警 告

定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

⚠ 注 意

定速クルーズコントロールでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

アドバイス

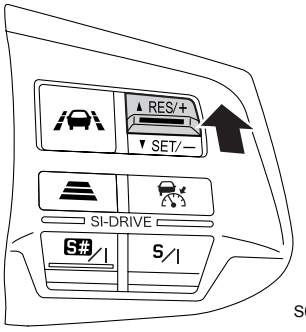
- セット車速は40km/h～100km/hの範囲で設定できます。
- 下り坂などでは、セット車速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、（車間設定）スイッチを約2秒間押し続けます。
- 2.0L車は、SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合に速度をセットすると、メーター内の表示がギヤ位置から D に切り替わります。

■セット車速を上げるとき

●RES/SETスイッチによる方法

- RES/＋側に1回ずつ押す
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ上がります。
- RES/＋側に押し続ける
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

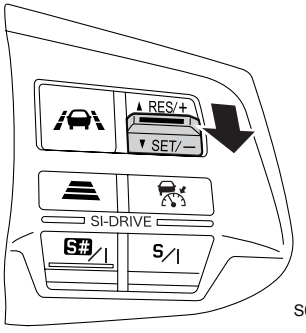
スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



S01034

●アクセルペダルによる方法

アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
希望の速度になったら RES/SET スイッチを SET/－側に押します。スイッチを押したときの車速に再セットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。



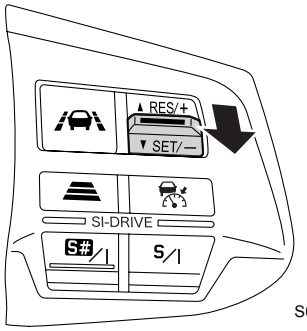
S01027

■セット車速を下げるとき

●RES/SETスイッチによる方法

- SET/－側に1回ずつ押す
  押すごとにセット車速が 5 km/h ずつ下がります。
- SET/－側に押し続ける
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとに EyeSight 表示部のセット車速が変わります。



S01027

●ブレーキペダルによる方法

①ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
定速クルーズコントロールが解除され、“SET”（SET表示）が消えます。

②希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、RES/SETスイッチをSET/－側に押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、EyeSight表示部に新しいセット車速を表示します。

■一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

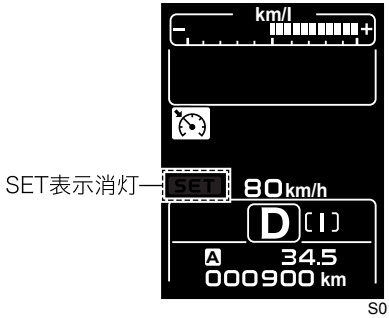
アドバイス

2.0L車は、SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合、アクセルペダルを踏み込むとメーター内の表示がDからギヤ位置に切り替わることがあります。

■一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。
EyeSight 表示部にセット車速を表示したまま、“SET”（SET表示）が消えます。

セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/SET スイッチをRES/＋側に押します。



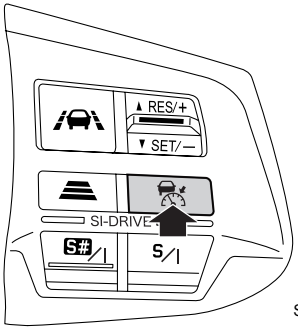
S01084

■解除のしかた

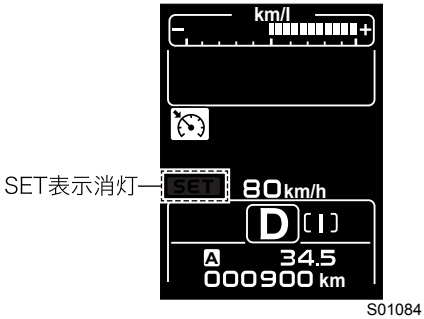
●運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む。
- (クルーズ）スイッチを押す
- EyeSight表示部は、セット車速を表示したまま、“SET”（SET表示）が消えます。
  - 再度(クルーズ）スイッチを押すと、EyeSight表示部の表示が消え、定速クルーズコントロールがOFFになります。



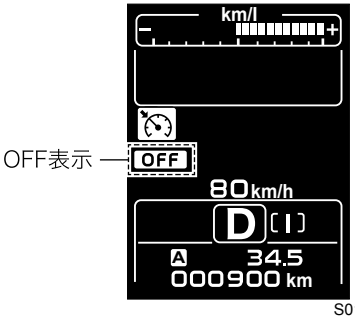
S01085



S01084

●システムによる自動解除

次の場合、“ポーン”と音が鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除されます(EyeSight表示部に“OFF”（OFF表示）を表示します)。



S01086

- セレクトレバーをDレンジ以外にしたとき
  - セレクトレバーをDレンジに戻すと、再度使用できます。
- セレクトレバーがDレンジで走行中、パドルシフトを操作したとき
  - パドルシフトをしばらく操作しなければ、再度使用できます（2.0L 車で SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択しているとき以外は、シフトポジション表示がDレンジに戻ります）
- 自車速が約30 km/h以下になったとき（急な登り坂など）
- 自車速が約140 km/h以上になったとき（急な下り坂など）
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき（電動パーキングブレーキ表示灯が点灯または点滅しているとき）

- EyeSightに異常があるとき（95ページの「EyeSightの故障および一時停止」参照）
- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき
- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき

⚠ 警 告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速クルーズコントロールを使用しないでください。

⚠ 注 意

セレクトレバーをNにすると定速クルーズコントロールは自動的に解除されますが、緊急時以外はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

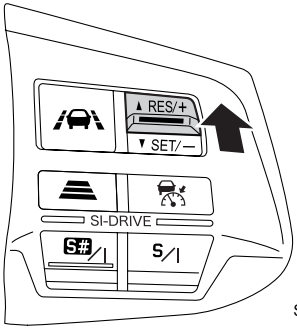
- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに出て、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても EyeSight 警告表示と表示灯が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

☆95ページ参照

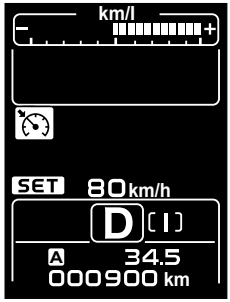
- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの状態が解消されてから、再びセット操作を行ってください。状態が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/SETスイッチをRES/＋側に押します。（EyeSight表示部が再びセット状態の表示になります。）前回のセット車速がメモリーされている場合、自車速約30 km/h以上のときにセットできます。



S01034



S01083

アドバイス

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  - （クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  - VDC、TCSが作動したとき
  - 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付クルーズコントロールに切り替えたとき
- 約40 km/h～100 km/hの範囲でセットされた車速で定速走行します。
- メモリー車速（前回のセット車速）が無い場合、RES/＋スイッチではセットできません。

システム作動音一覧

音	状態	参照先
ピーー…	プリクラッシュブレーキ： 2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆26ページ
ポーン	全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☆51、90ページ
	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持中に自動的に電動パーキングブレーキが作動したとき	☆51ページ
	アクティブレーンキープ（車線中央維持機能、車線逸脱抑制機能）が自動解除されたとき	☆60、65ページ
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ： 1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆26ページ
	プリクラッシュブレーキ： 車間距離警報が作動したとき	
	全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☆36ページ
	AT誤発進抑制制御が作動したとき	☆68ページ
	AT 誤後進抑制制御の後退飛び出し抑制が作動したとき	☆73ページ
ピピピピピピッ	アクティブレーンキープ（車線中央維持機能、車線逸脱抑制機能）作動中に、逸脱回避要求警報が作動したとき	☆61、67ページ
	車線逸脱警報が作動したとき	☆78ページ
	ふらつき警報が作動したとき	☆81ページ
ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ポーン	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持が２分間継続し自動的に電動パーキングブレーキが作動するとき	☆49ページ

ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に ・先行車を認識したとき※ ・先行車がいなくなったとき※	☆40ページ
	モード（全車速追従機能付クルーズコントロール←→定速クルーズコントロール）を切り替えたとき	☆86ページ
	EyeSightが故障したとき	☆95ページ
	EyeSightが一時停止したとき	☆96ページ
	プリクラッシュブレーキ（AT誤発進抑制制御、AT誤後進抑制制御を含む）をOFFまたはONにしたとき	☆29、72、77ページ
	車線逸脱警報（ふらつき警報を含む）をOFFまたはONにしたとき	☆80、82ページ
ポピッ	先行車発進お知らせが作動したとき※	☆83ページ
ポーンポーン…	後退速度リミッターが作動しているとき	☆75ページ

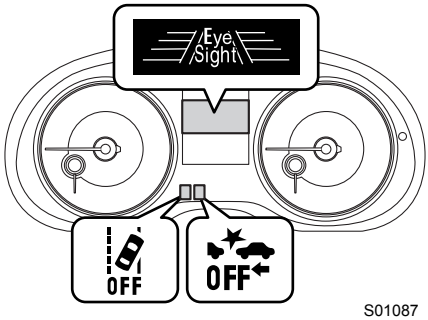
※先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときの音（先行車捕捉音）および先行車発進お知らせの作動あり/作動なしの設定を変更できます。
☆98ページ参照

EyeSightの故障および一時停止

EyeSightの異常を検知すると、メーター内の表示灯とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

■故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

“ピッ”と音が鳴り、EyeSight警告表示“EyeSight”（黄色）が出ます（点滅または点灯）。同時に、プリクラッシュブレーキOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。



S01087

表示画面	原因	処置
販売店で点検を 受けて下さい DP1001	EyeSightの故障またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。	点検、調整などが必要です。スバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

走行中にEyeSight警告表示とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightは使用できません。

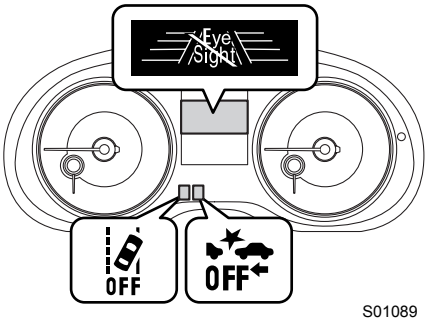
アドバイス

- EyeSight警告表示が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度エンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動しても表示が点灯または点滅し続けるときは、EyeSightの異常が考えられます。この場合、EyeSightの全ての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時停止

“ピッ”と音が鳴り、EyeSight 一時停止表示“EyeSight”（白色）が出て、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が同時に点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的にEyeSightが復帰します。



S01089

表示画面	原因	処置
一時停止 カメラ視界不良 DP1002	ステレオカメラが前方を認識しにくい • フロントガラスの汚れ、曇り • 悪天候時 • 前方からの強い光	• フロントガラスをきれいにしてください。 • 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。 状況が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。
一時停止 カメラ温度範囲外 DP1003	低温または高温時	EyeSightが使用可能な温度になると復帰します。 室内が常温でも復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。

表示画面	原因	処置
 DP1004	• EyeSight起動中 • 車両が極端に傾いていると判断したとき • エンジン始動後、プリクラッシュ2次ブレーキが3回作動したとき • エンジンが停止したとき（アイドリングストップによる停止を除く） • 停車中または極めて低い速度で走行中にハンドル操作を行い、電動パワーステアリングが過熱防止状態になったとき • ハンドルの舵角センサーの中立点がずれているとき • 極度にホイールアライメントがずれているとき	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。 原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

EyeSight一時停止表示が出ているときは、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が使用できません。

カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイで次の項目の設定を変更できます。

項目		設定	初期設定
EyeSight	警報音量	大/中/小/戻る	中
	先行車捕捉音	ON/OFF/戻る	ON
	先行車発進お知らせ	ON/OFF/戻る	ON
	レーンキープ（車線中央維持）	ON/OFF/戻る	ON
	後退速度リミッター	高速/中速/低速/OFF/戻る	低速

アドバイス

設定を、工場出荷時の状態（初期設定）に戻すことができます。
☆「レヴォーグ取扱説明書」参照

■カスタマイズのしかた

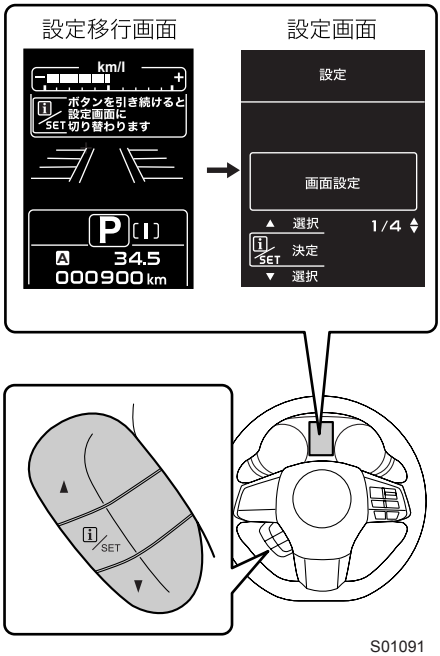
エンジンスイッチがONで停車中、セレクトレバーがPのときに操作できます。

①▲▼スイッチを手前に引いて、“設定移行画面”を表示します。
(インフォメーション）/SETスイッチを引き続けると、設定画面に切り替わります。

②▲▼スイッチを手前に引いて、“EyeSight”を選択し、(インフォメーション）/SETスイッチを引いて決定します。
EyeSight設定画面に切り替わります。

画面の表示にそって、次のスイッチを操作してください。

- 選択：▲（戻し）スイッチ、▼（送り）スイッチ
- 決定：(インフォメーション）/SETスイッチ



S01091

●警報音量の設定

音量を大/中/小に設定できます。
警報音量設定画面のとき、▲▼スイッチで音量を選択すると選択した音量で音が“ピピピッ”と鳴ります。

●先行車捕捉音の設定

先行車捕捉音の作動あり（ON）/作動なし（OFF）を設定できます。

●先行車発進お知らせの設定

先行車発進お知らせの作動あり（ON）/作動なし（OFF）を設定できます。

●レーンキープ（車線中央維持）の設定

アクティブレーンキープの車線中央維持機能の作動あり（ON）/ 作動なし（OFF）を設定できます。

アドバイス

カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動なし（OFF）に設定している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に（レーンキープ）スイッチを押すと車線逸脱抑制機能が作動します。

●後退速度リミッター

AT誤後進抑制機能の後退速度リミッターの作動あり（低速/中速/高速）と作動なし（OFF）を設定できます。

低速	約10km/h
中速	約15km/h
高速	約20km/h

アドバイス

“戻る”を選択すると、一つ上の階層に戻ります。

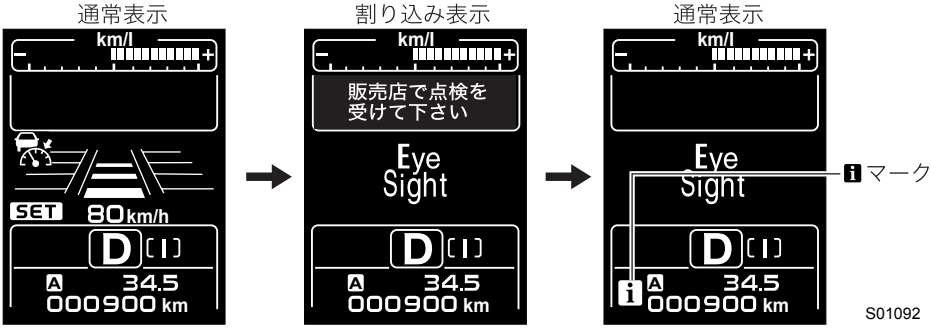
●カスタマイズのキャンセル

次の場合、カスタマイズがキャンセルされ“設定移行画面”に戻ります。

- （インフォメーション）/SETスイッチを手前に引き続けたとき
- エンジンスイッチをOFFにしたとき
- 約30秒間スイッチが操作されなかったとき

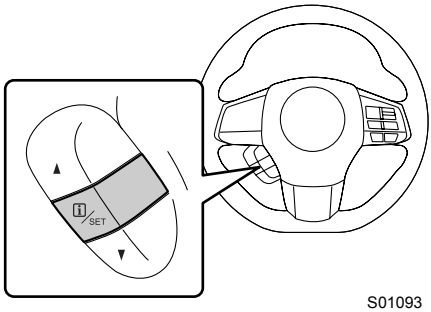
割り込み画面一覧

EyeSightの警報や異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面を表示します。内容によっては、割り込み画面の表示と同時に音が鳴ります。



割り込み画面が出たときは画面一覧を参照し、必要な処置を行ってください。

マークが点灯しているときにi（インフォメーション）/SETスイッチを引くと、割り込み画面を再度表示できます。



■画面一覧（警報、お知らせ）

項目	表示画面	マーク	処置
プリクラッシュブレーキ	前方注意 DP1005	無し	☆26ページ参照
ブレーキ踏み増し要求警報		無し	☆36ページ参照
AT誤発進抑制制御		無し	☆68ページ参照
後退飛び出し抑制	後方注意 DP1060	無し	☆74ページ参照

項目	表示画面	マーク	処置
後退速度リミッター	DP1061	無し	☆75ページ参照
後退速度リミッター 制限速度設定	DP1065	無し	
車線逸脱警報	DP1006	無し	☆78ページ参照
逸脱回避要求警報		無し	☆61、67ページ参照
前方カーブ限界お知らせ	DP1064	無し	☆62ページ参照
ふらつき警報	DP1007	無し	☆81ページ参照
先行車発進お知らせ	DP1008	無し	☆83ページ参照
全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールの自動解除	DP1062	無し	☆50、90ページ参照

■画面一覧（故障、一時停止）

項目	表示画面	iマーク	処置
EyeSightの故障	販売店で点検を 受けて下さい DP1001	有り （黄色）	☆95ページ参照
EyeSightの一時停止	一時停止 カメラ視界不良 DP1002	有り （白色）	☆96ページ参照
	一時停止 カメラ温度範囲外 DP1003	有り （白色）	
	一時停止 DP1004	有り （白色）	

MEMO

	追従クルーズコントロールがセットできない
	(クルーズ) スイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは(追従クルーズ) 表示が消えています。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？ EyeSightが一時停止状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに“EyeSight”(EyeSight一時停止表示) を表示します。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
	READY表示が出ていますか？ (全車速追従機能付クルーズコントロール時) READY表示が出ていないとセットできません。READY表示が出ているときセット操作してください。

	READY表示が出ない
	定速クルーズコントロールになっていませんか？ 定速クルーズコントロールになっているときは、マルチインフォメーションディスプレイのEyeSight表示部にREADY表示は出ません。
	セットできる条件ですか？ 次のいずれかのときは、READY表示は出ません。 • ブレーキペダルを踏んでいるとき • 自車速が約0 km/h〜100 km/h以外のとき • メーター内のシフトポジション表示がD以外のとき(セレクトレバーやパドルシフトを操作したとき) • 運転席のシートベルトが着用されていないとき • 運転席・助手席・後席のいずれかのドアが開いているとき • 電動パーキングブレーキが作動しているとき（電動パーキングブレーキ表示灯が点灯または点滅）※ • 急な坂にいるとき • ハンドルを大きく切っているとき ※電動パーキングブレーキの解除方法は「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスが汚れたり、曇ったりしていませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、先行車を認識しない場合があります。 フロントガラスの汚れや曇りを取り除いてから再び使用してください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約110 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	登り降りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れる場合があります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できない場合があります。

	先行車がいないのに制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	EyeSightが一時停止から復帰しない
	雨天の中を、古いワイパーのままや、フロントガラスに油膜が付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの油膜を取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドライトをあびていませんか？ この場合、EyeSightが一時停止状態になります。

	ブレーキ踏み増し警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し警報は、先行車との距離や速度差などから、システムが踏み増し要と判断したときに作動するため、先行車のブレーキのかけ方によってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車がいなくなった後や、先行車との距離が離れた後の加速が遅いとき、または速いときがある
	自車や先行車の走行状態や周囲の道路状況によっては、システムの判断が遅くなる場合があり、加速するタイミングが遅く感じる可能性があります。
	SI-DRIVEはどのモードを選択していますか？ 選択したモードにより全車速追従機能付クルーズコントロールの特性が変わるため、加速が異なります。
	システムが赤信号を認識していませんか？ 赤信号を認識しているときは不要な加速を抑えることがあります。

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしている。 • ブレーキペダルを踏んでいませんか？ • (クルーズ) スイッチを押していませんか？ ー セット中に(クルーズ) スイッチを押すとクルーズコントロールが解除されます。 • 急な坂にいませんか？ • ハンドルを大きく切っていませんか？ • パドルシフトレバーを操作していませんか？ • セレクトレバーをMにしていませんか？
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？

	自動ブレーキが作動すると音がする
	自動ブレーキの作動音で異常ではありません。

	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	停止保持中に電動パーキングブレーキが勝手に作動した
	次の場合は電動パーキングブレーキがかかります。 • 停止保持状態で約2分経過したとき • 自動解除条件（☆51ページ参照）を満たしたとき

	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にエンジンが停止した
	アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯していませんか？ これはアイドリングストップの作動によるもので異常ではありません。

	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にアイドリングストップしない
	アイドリングストップの作動条件については「レヴォーグ取扱説明書」を参照してください。

	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にアイドリングストップした後、再度エンジンがかからない
	アイドリングストップ警告灯が点灯していませんか？ 警告灯が点灯しているときは、セレクトレバーを[P]にし、ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してエンジンを始動してください。

	/（レーンキープ）スイッチを押したけど、車線中央維持機能が働かない
	全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていますか？ 車線中央維持機能は全車速追従機能付クルーズコントロールが作動しているときだけ働きます。
	カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動あり（ON）にしていますか? カスタマイズ機能で車線中央維持機能を作動なし（OFF）にしているときは、車線逸脱抑制機能が働きます。

	道路に白線がはっきりと描かれているのにアクティブレーンキープ（車線中央維持機能、車線逸脱抑制機能）が働かない
	白線は両側ともはっきりと描かれていますか？ 白線が片側のみしかはっきりと描かれていない場合、アクティブレーンキープは車線を認識できないため、作動しません。
	車線の幅が狭い、もしくは広くありませんか？ 車線の幅が約3m～4mでないと、アクティブレーンキープは作動しません。

	アクティブレーンキープ（車線中央維持機能、車線逸脱抑制機能）が勝手に解除された
	ハンドルから手を離していませんか？ハンドルに軽く手を添えて運転をしていませんか？ システムが運転者のハンドル操作を検知できない場合、アクティブレーンキープを一時解除します。
	急なカーブを走行していませんか？ 急カーブではアクティブレーンキープは作動しません。
	次のいずれかの操作をしている • 方向指示器レバーを操作していませんか？ • 車線からそれるために、ハンドルを操作していませんか？ • アクセルペダルを深く踏み込んでいませんか？ • フロントワイパーが高速で作動していませんか？ • 自車速が約60km/h未満、または約120km/h以上を超えていませんか？

	車線逸脱警報をOFFにしているのに、車線逸脱警報が鳴る
	/（レーンキープ）スイッチをONにしていませんか？ アクティブレーンキープの作動中に車線から逸脱しそうになると、車線逸脱警報と同じ表示・警報音の逸脱回避要求警報が作動します。

	後退するときに、アクセルを急に踏んでも後退飛び出し抑制が働かない
	通常の運転操作時に不必要な制限をしないように、踏み込み強さの判定値を高く設定しています。 ただし、後退飛び出し抑制が働かない場合でも、後退速度リミッター※により、急な加速を抑えます。 ※ 後退速度リミッターを作動あり（低速/中速/高速）に設定しているときのみ。
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯していませんか? プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押して、機能をONにしてください。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか?

	後退飛び出し抑制が勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか? • アクセルペダルを深く踏んだ状態が3秒以上継続した。 – システムが速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ – システムが減速したい意思があると判定し、自動ブレーキ制御を解除します。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか? 後退飛び出し抑制が作動中にEyeSightが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

	後退速度リミッターが効かない
	設定がOFFになっていませんか? または、後退速度リミッターの制限速度が速く設定されていませんか? 後退速度リミッターの制限速度は、カスタマイズ操作で設定します。 OFFになっていたり、制限速度がお客様の通常の後退速度より速く設定されている場合は、設定を変更してください。
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯していませんか? プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押して、機能をONにしてください。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか?

	後退速度リミッターが作動中に勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか? • アクセルペダルを深く踏んだ – システムが速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ – システムが減速したい意思があると判定し、自動ブレーキ制御を解除します。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか? 後退速度リミッターが作動中にEyeSightが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

さくいん

あ

EyeSight一時停止表示 ・・・・・・・・・・・・・14
EyeSight警告表示 ・・・・・・・・・・・・・・・14
EyeSightについて ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
EyeSightの故障および一時停止
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
アイドリングストップ警告灯/
アイドリングストップOFF表示灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
アイドリングストップ表示灯・・・・・・・14
アクティブレーンキープ・・・・・・・・・・・54
車線逸脱抑制機能 ・・・・・・・・・・・・・・・63
車線中央維持機能 ・・・・・・・・・・・・・・・58

い

逸脱回避要求警報 ・・・・・・・・・・・・・ 61、67

え

AT誤後進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・73
AT誤後進抑制制御をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
後退速度リミッター ・・・・・・・・・・・・・75
後退飛び出し抑制 ・・・・・・・・・・・・・・・74
AT誤発進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・68
AT誤発進抑制制御をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
SI-DRIVEスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・16
Iスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
S/Iスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
Sスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
S#/Iスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

お

OFF表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

か

カスタマイズ機能・・・・・・・・・・・・・・・・98

く

クルーズコントロール
全車速追従機能付
クルーズコントロール ・・・・・・・30
定速クルーズコントロール ・・・・・・・・84
クルーズコントロールSET表示 ・・・・・・12
クルーズスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・15
クルーズ表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

こ

後退速度リミッター ・・・・・・・・・・・・・・・75
後退飛び出し抑制 ・・・・・・・・・・・・・・・・74
故障と思う前に ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

し

システム作動音一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・93
車間距離警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
車間設定スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・16
車間設定表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
車間設定を変える ・・・・・・・・・・・・・・・・46
車線逸脱警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
車線逸脱警報OFF表示灯 ・・・・・・・・・・14
車線逸脱警報をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
車線逸脱抑制機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・63
車線中央維持機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・58
車線表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
信号認識機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

す

スイッチ
SI-DRIVEスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・16
クルーズスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・15
車間設定スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・16
車線逸脱警報OFFスイッチ ・・・・・・・・18
ステアリングスイッチ ・・・・・・・・・・・・・15
SET/-スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・16
プリクラッシュブレーキOFFスイッチ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

RES/＋スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・16
レーンキープスイッチ ・・・・・・・・・・・・16
ステアリングアシスト ・・・・・・・・・・・・・28
ステレオカメラの取り扱いについて
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

せ

SET/-スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
セット車速表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・12
セット車速を変える ・・・・・・・・・・・43、87
SET表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
セレクトインジケーター /
シフトポジション表示 ・・・・・・・13
先行車発進お知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・83
先行車表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
全車速追従機能付クルーズコントロール
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
解除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
使用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
前方カーブ限界お知らせ ・・・・・・・・・・・・62

て

定速クルーズコントロール ・・・・・・・・・ 84
解除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
使用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
定速クルーズコントロールを
セットするとき ・・・・・・・・・・・・85

は

ハンドル表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

ふ

ふらつき警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
ふらつき警報をOFFにするとき ・・・・・・82
プリクラッシュステアリングアシスト
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
プリクラッシュブレーキ ・・・・・・・・・・・・19
プリクラッシュブレーキOFF表示灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
プリクラッシュブレーキの作動
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
プリクラッシュブレーキを
OFFにするとき・・・・・・・・・・・・・ 29

ほ

HOLD表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

ま

マルチインフォメーションディスプレイ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

め

メーター表示構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
EyeSight一時停止表示・・・・・・・・・・・ 14
EyeSight警告表示・・・・・・・・・・・・・・・ 14
赤信号表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
SI-DRIVEモード表示・・・・・・・・・・・・・ 13
OFF表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
クルーズ表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
車間設定表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
セット車速表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
SET表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
セレクトインジケーター /
シフトポジション表示・・・・・・・ 13
先行車表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
ハンドル表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
HOLD表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
レーンキープ表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
READY表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
割り込み画面一覧 ・・・・・・・・・・・・・・100
メモリーされている車速に
再びセットする・・・・・・・・・53、92

り

RES/＋スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

れ

レーンキープスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・ 16
READY表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

わ

割り込み画面一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・100

A

AT誤後進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
後退速度リミッター ・・・・・・・・・・・・・・ 75
後退飛び出し抑制 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
AT誤後進抑制制御をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
AT誤発進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
AT誤発進抑制制御をOFFにするとき
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

E

EyeSight一時停止表示 ・・・・・・・・・・・・・ 14
EyeSight警告表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
EyeSightについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
EyeSightの故障および一時停止
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95

H

HOLD表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

O

OFF表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

R

READY表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
RES/＋スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

S

SET/-スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
SET表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
SI-DRIVEスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
Iスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
S/Iスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
Sスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
S#/Iスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール 0120−052215

受付時間　9:00〜17:00(平日)、土日祝は9:00〜12:00、13:00〜17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00〜13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）
2014年8月17日（予定）より下記所在地に変更
〒150-8554　渋谷区恵比寿1-20-8（エビススバルビル）

禁複製・転載

編集・発行　富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンター